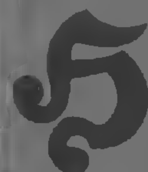
財団法人 日本ハンドボール協会編　平成21年 9月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻503号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

特集
第14回ヒロシマ国際大会
第3回女子ユースアジア選手権
第50回全日本実業団選手権大会





SEP. 2009・No.503

【表紙写真：ヒロシマ国際大会、日本代表・[illegible]選手】

財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/





次代を担う
若手レフェリーの育成



(財)日本ハンドボール協会常務理事　**植村　彰**

平成21年度4月より島田房二前審判部長に代わって審判部長の大役を仰せつかることになりました。審判部長として就任したこれからは、私が今までお世話になった感謝の気持ちと少しでも恩返しが出来るよう粉骨砕身の思いで指導に当たっていきたいと考えています。第1回常務理事会で、日本ハンドボール協会、最大目標である次のロンドンオリンピック男女出場、世界選手権出場、メダル獲得の実力をつける事に向けて、各部署（事業）がそれぞれの重点目標を明確にし、総力を結集して取り組んでいくことが確認されました。

審判部では、強化と審判は目的を達成するための両輪であり、双方の関係が常に密接な関係にある事を念頭におき、審判技術の向上を目指し次のような施策を考えています。

【重点施策】	**1．競技規則の正しい運用**	・2010年新ルールの正確な伝達
	2．トップレフェリーの資質向上	・次代を担う若手レフェリーの育成
	3．ＹＲＰの実質的な運用	・NTSとの連携を密接に
	4．国際レフェリー育成	・IHFヤングレフェリー　・レフェリーコース開催の実現

◎競技規則の正しい運用について……先日、7月27日～8月1日までの5日間、チュニジアで開かれたコーチ・レフェリーシンポジュームに参加してまいりました。大幅な改正ではありませんが競技規則8条を中心に幾つかの変更点が伝達されました。中でもステップの基準歩数の数え方に変更があります。ただ今、競技規則研究委員会と共に混乱を招かないための正しい伝達方法を検討しています。IHFでは、2010年8月実施を決定しています。国内では2010年4月実施をめざし準備を進めています。また、「正しい伝達」と言う観点から、全国規模のコーチ・レフェリーシンポジューム開催を考えています。

◎トップレフェリーの資質向上について……国内でのトップレフェリーの高齢化が進む中、次代を担う若いレフェリーの育成は必至であります。全国大会をはじめとする国内トップのゲームである日本リーグのゲームを担当出来るレフェリーを育成していきます。

◎ＹＲＰの実質的な運用について……YRP（ヤングレフェリープロジェクト）の意識は、各都道府県でも徐々に高まってきているものの十分と言える段階にまでは到達出来ていません。若い素質あるレフェリーの発掘のためにも積極的な働きかけが求められています。先代審判長の強い願いでもあるこの事業については、NTSのトレーニングメニューに選手強化と合わせてレフェリー強化も組み込まれ、選手の育成と合わせてレフェリーの育成にもつながるよう連携を深めていきたいと考えています。

◎国際レフェリーの育成について……先述したコーチ・レフェリーシンポジュームで、ヤングレフェリー育成を積極的に取り組んでいく内容の講義がありました。IHF（ヨーロッパを中心とする）では18～30歳までの優秀なコンチネンタルレフェリーを対象とし、IHFが考える育成プログラムを受講、若い年齢でIHFの資格を取得させ、IHFが主催する各大会にノミネートしている話がありました。事実、チュニジアで開催されていた、2009世界男子ユース選手権のレフェリー団は26～32歳という、若い年齢で構成されていました。世界の流れから国内では、国際につながる若手レフェリーおよび女性レフェリーの育成と発掘が急務であります。

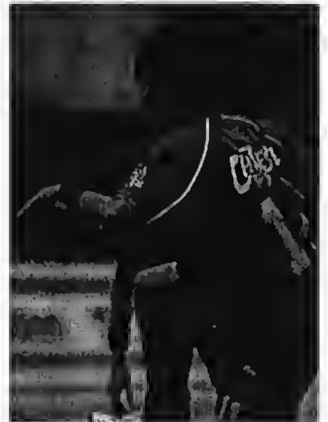
現在国内のコンチネンタルレフェリーは2ペア。しかし、年齢的にAHFからのノミネートはありません。そのためにも出来るだけ早い時期に国内でコンチネンタルレフェリーコースが開催出来るようAHFに強く働きかける必要があります。この他にも審判部として取り組んでいかねばならない課題は山積されています。先に述べたとおり、「強化と審判は両輪」の意識を絶やさず関係者および関係機関の連携を密にし、ハンドボール競技発展のために取り組んでいきたいと考えます。ご協力宜しくお願い致します。

第14回ヒロシマ国際ハンドボール大会









第14回ヒロシマ国際ハンドボール大会をおえて

広島県ハンドボール協会理事長　山本　一

1994年の広島アジア競技大会のメモリアル大会として、翌年から開催されているヒロシマ国際ハンドボール大会ですが、今年で14回目を迎えました。

2003年はSARS騒動の為中止としましたが、原則として男女の大会を交互に行っており、今年は女子の試合で、当初はヨーロッパのクラブチームを招聘することで計画していました。しかしながら、昨年10月の世界を襲った世界経済不況のあおりで遠征費を捻出できずとの連絡があり、ヨーロッパチームの来日はなりませんでした。

来日を希望していた韓国のクラブチームも、大会直前に世界を混乱させた新型インフルエンザ騒動の影響で参加できないとの連絡があり、大会直前まで参加チームが中々決まらず、業を煮やしました。台湾代表は早くから参加が決まっていましたが、残る1チームは中国山東省チームにお願いするしかない状態となりました。中国山東省チームのビザ取得が間に合うかどうかやきもきしましたが、何とか来日してくれてほっとしたものです。

迎えるチームは、日本代表及び地元広島メイプルレッズの選手を中心に編成した日本リーグ選抜の2チームです。12月の世界選手権に出場する日本代表チームにとっては物足りない相手だったかもしれませんが、体格的に身長平均約10cm、体重平均約7kgも違う中国山東省チームを仮想ヨーロッパ勢とみての戦いも見ものの一つでした。

大会は3日間共豪雨に見舞われ観客数は芳しくありませんでしたが、それでも足を運んでくださったハンドボールファンには感謝の気持ちで一杯です。

これからの反省としても、招待チームを早めに正式決定し、準備することが肝要かと思います。

最後に大会を開催するにあたり、広島県、広島市をはじめ各方面から多大な協力を賜りましたことに感謝し、日本代表のさらなる飛躍を祈念いたします。

戦　評

◆第1日（7月24日（金））

日本代表　55（27-4, 28-6）10　台湾代表
（1勝）　　　　　　　　　　（1敗）

若手主体の台湾と、日韓戦で勝利を収め波に乗る全日本との一戦。実力差からか、出だしから一方的な展開となった。5分過ぎまで6対0と日本リード、ようやく10分過ぎに台湾チームも1点を返すも、日本の攻勢は変わらず、得点を重ねる。日本はメンバーを入れ替え、様々な戦術を試す余裕も。前半を27対4、大差で折り返した。

後半に入っても、日本は手を緩めず着実に加点、得点差を広げていく。台湾も気持ちを切らすことなく、果敢に日本に向かっていくも、固いディフェンスを崩せず、点差は広がる一方となった。中盤、日本チームにも退場者が相次ぎ、集中力が切れかけたが、しっかり持ち直し、後半も28点を奪う猛攻を見せ、55対10で日本が勝利した。

日本リーグ選抜　36（18-18, 18-10）28　中国山東省
（1勝）　　　　　　　　　　　　（1敗）

中国でも実力トップクラスのクラブチーム山東省を日本リーグ選抜が迎え撃つ。前半､出だしから一進一退の試合展開。両チームとも攻撃力があり、得点を重ねる。常に山東省がリードするも、リーグ選抜が追いつく展開。最大3点差の激しい試合展開の中､前半を終わって18対18の同点で終了した。

後半が始まっても、前半の余韻を残す一進一退の白熱した攻防を展開。5分過ぎまで21対21の同点。山東省9番の退場をきっかけに試合が動く。山東省のミスから立て続けに速攻がきまり、11分までに27対23と一気に突き放した形となった。逆転・リードした日本リーグ選抜はその後も、攻撃の手を緩めず速攻で、畳み掛けると16分には30対23と7点差にリードを広げた。疲れの見え始めた山東省を尻

目にセットでも選抜チームと思えぬ華麗なコンビプレーで加点。20分過ぎには10点差と勝利を決定づけた。山東省も粘りを見せ、盛り返すも8点差まで、36対28と日本リーグ選抜が勝利を収めた。

◆第2日（7月25日（土））

中国山東省　34（18-10, 16-12）22　台湾代表
（1勝1敗）　（2敗）

初戦を落とした両チームの第2戦、何としても勝ち点を挙げたい両チームだが、地力に勝る中国山東省が有利か。出だし、慎重な山東省に対して積極的に仕掛ける台湾代表、5分過ぎまで3対3と食い下がる。ここから中国山東省はサイド6番のカットインなどで徐々に差を開く。10分過ぎまで7対3と4点差をつける。台湾代表も細かく繋ぎ、得点を狙うが、対応が早い中国山東省のディフェンスを崩せない状態が続き、中国山東省が一気に抜け出すかと思ったが、中国山東省のミスにも助けられ、17分過ぎまで9対6と台湾代表が粘りを見せた。終盤を迎え、シュートミスが多く、退場者を出すものの、地力に勝る中国が徐々に差を広げ始め、9番ワン選手の活躍もあり、前半を18対10の8点差で折り返した。

後半に入って、中国山東省が一気に抜け出すかと思いきや、台湾代表も果敢に打ち込み10分過ぎまで23対15と8点差、後半序盤は5対5の互角の展開。中盤に差し掛かっても、台湾代表の攻勢は続き、14分過ぎまでに23対18と5点差に迫り、中国山東省が思わずタイムアウトを取る。一進一退の攻防は続き、19分まで20対27と台湾代表は互角の戦いを見せた。終盤に入ってようやく、落ち着きを取り戻した中国山東省が徐々に点差を開き、34対22で中国山東省が勝利をおさめた。

日本代表　30（14-12, 16-7）19　日本リーグ選抜
（2勝）　（1勝1敗）

事実上の決勝戦となるか、勝てば優勝に大きく近づく日本対決。リーグ選抜のスローオフで始まった一戦は、出だしポスト、速攻から18番横島らが得点し、7分まで5対1と全日本がリード、全日本のディフェンスを崩せず、ようやく2点目を挙げたのが13分と苦戦を強いられる。しかし、シュートミスなどで波に乗れない全日本から、速攻などで徐々に点差を詰めるリーグ選抜が19分過ぎには9対6の3点差に詰め寄る。その後は一進一退の攻防が続くが、26分には12対10と2点差に、そのまま14対12の全日本2点リードで前半終了、いよいよゲームは白熱してきた。

後半出だし、先にスパートをかけたのは全日本、積極的に速攻を仕掛け、3連取で17対13と4点差に。シュートミスは多いものの、積極的なディフェンスを展開、植垣らの活躍もあって13分には22対15と7点差とした。中盤を過ぎても、ディフェンスを緩めない全日本は17分までに25対15と10点差をつけた。リーグ選抜はホンとイの二人の韓国人選手を中心に攻撃を組み立てるが、攻め手を欠き、得点が伸びない。メンバーを入れ替え、打開を図るものの、7番イ選手の単発のみで、点差を詰められない。結局、日本代表が力の差を見せつける形で30対19で勝利した。

◆第3日（7月26日（日））

日本リーグ選抜　49（23-10, 26- 6）16　台湾代表
（2勝1敗）　（3敗）

勝利して、優勝に少しでも望みを残したい日本リーグ選抜と来日1勝を挙げたい台湾代表の1戦。両チームの初得点は2分30秒過ぎの台湾のセットプレーからと、両チーム固い出足。リーグ選抜は、GKの好セーブからリズムを取り戻し、速攻、セットで着実に加点。10分までに6対1と主導権を握る。リーグ選抜のディフェンスを崩せず、苦戦を強いられていた台湾だったが、11番ジャ選手のミドルを中心に組み立て反撃、中盤18分まで10対6と一進一退の攻防を繰り広げた。しかしここから、スピードに勝るリーグ選抜がディフェンスから立て直し、速攻をしかけ24分までに17対8と一気に9点差をつけた。その後も、リーグ選抜は走り続け、前半を23対10、13点リードとした。

後半に入っても、リーグ選抜の攻勢は変わらず、前半11分までに32対13と19点差とした。何とか粘りたい台湾代表だが、攻撃に活路が見出せないまま、リーグ選抜の速攻を浴び続け、20分には40対15と25点差をつけられた。

リーグ選抜はメンバーを代えるも、ディフェンス力は落ちず、着実に速攻に結びつけ、最終49対16で勝利した。

日本代表　45（24- 6, 21- 7）13　中国山東省
（3勝）　（1勝2敗）

きっちり3勝をあげて優勝したい日本代表。出だしから、積極的にディフェンス、オフェンスとも仕掛ける。受けて立つ中国山東省もクイックスタートを多用するなど、激しい攻防が繰り広げられた。日本はGKの好セーブ、ポスト横島の活躍もあり、8分過ぎまで7対2とリードする。日本代表は中国山東省の大型バックプレーヤーを効果的に抑え、すばやく速攻を展開、15分までに13対5とリードを広げる。その後も日本代表はディフェンスで集中力を保ち、相手に得点を許さない。25分には21対6、前半24対6の日本代表18点リードで終了した。

後半に入っても、日本代表のディフェンスは、よく足が動き、集中を切らさない。高いディフェンスで相手の攻撃を封じ込め、失点を許さない。11分過ぎまで、32対7と後半の失点を1点に抑える。日本代表は中盤、集中力を欠いた攻めで、3連続失点を許すも、日本代表の優位は動かない。26分まで41対11と30点差とした。最終45対13で日本が完勝。3連勝で優勝を飾った。

第3回女子ユースアジア選手権
(2010年ユースオリンピック予選)

■報 告

日本選手団々長 高田日呂美　ヘッドコーチ 繁田順子

1 期 間 2009年7月3日(金)〜9日(木)

2 場 所

ヨルダン・ハシミテ王国アンマン市ファイサル体育館

3 参加国 日本 韓国 タイ カザフスタン ヨルダン

4 日本チーム 役員5名 選手15名

5 競技方法 1回戦総当りのリーグ戦方式

6 大会運営他

①試合会場は昨年の男子ジュニアと同じアンマン郊外のファイサル体育館であり、ハンドボール専用コートで、空調も整った観客席2千人の施設であった。

②試合開始時間の変更が2度あったが、運営はほぼ順調に行われた。

③審判については、日本・韓国に対して特に不公平な感じはなかったが、審判ペアー全体の力量不足を感じた。

7 試合結果 ※星取表

8 各試合評

〈タイ・ヨルダン戦〉力の差は歴然としているが気を引き締めコートに向かった。40得点以上、15点以下を目標としたが、1人1人が自分の持ち味を充分生かし全員得点で終えることができた。

〈カザフスタン戦〉U-18とは思えないロシア系の大型選手が立ちはだかった。ユース初出場の為データはなかったがフル代表と同じならダブルポストが考えられたし、初戦の韓国戦を観戦できたのはラッキーであった。前半は大型ポストとGKに手こずり押されぎみだったが徐々にDFが機能しはじめ、速攻でリズムをつかみ主導権を握ることができた。カザフは経験が浅く荒削りではあるが、体格を生かしたパワーハンドは今後警戒すべきチームであることを認識。

〈韓国戦〉今回の韓国は絶対的な攻撃力に欠け、GKも安定していないと判断(従来格下相手に60点近い得点力にも拘らず対ヨルダン戦は43点)。最終日の日韓戦を控えた総得点(日本119点、韓国124点)総失点(日本、韓国共に55点)とほぼ互角。勝つチャンスは充分にあり優勝も狙える。チーム一丸となって戦ったがあと一歩及ばず32対33。悔しい敗北となった。ポイントとなった①前半残り2分(2失点)②後半スタート4分(4失点)③後半残り3分(3失点)いずれも「1対1から縦の強さ」と「アグレッシブDFからのインターセプト」の連続失点で一瞬の内に韓国ハンドの強さで押し切られたものである。しかし、後半スタートで一気に同点にされそのまま引き離されるかと思われた場面でも、果敢に攻め続けあきらめなかった選手達の姿は確実に成長のあとが伺えた。

今回2度の強化合宿(延べ10日間)を実施したが韓国と比べれば圧倒的に少なく又、大会が終われば解散となるので次へのステップとしては弱いものがある。物理的、経済的に厳しい条件ではあるが、年間を通した強化トレーニングの実施に向け、アカデミーとも連携しながら推進していきたい。

9 特記事項

在ヨルダン日本大使が4試合全戦に来場され応援を頂いた。これは事前に日本協会から大使館に連絡してあった事と共にアンマン空港で大使館職員と出会った事が大きく影響していた。試合には常に大使館職員、在ヨルダンの日本人会、企業駐在者、青年海外協力隊員などが応援に駆けつけ、特に韓国戦には50名を超える人々に日の丸の小旗とメガホンで大きな声援を送って頂いた。選手一同、大変心強い思いを抱く事が出来た。また、試合終了後、帰国の日には選手団全員が大使公邸での昼食会に招待され久しぶりの日本の味を堪能し、歓談することができた。

		韓国	日本	カザフスタン	タイ	ヨルダン	勝-分-敗	総得点	総失点	差	勝ち点
1位	韓国	*******	○33 (14-18/19-14) 32	○35 (20-15/15-12) 27	○46 (22-10/24-7) 17	○43 (19-4/24-7) 11	4-0-0	157	87	70	8
2位	日本	×32 (18-14/14-19) 33	*******	○33 (15-13/18-13) 26	○41 (18-7/23-9) 16	○45 (19-5/26-8) 13	3-0-1	151	88	63	6
3位	カザフスタン	×27 (15-20/12-15) 35	×26 (13-15/13-18) 33	*******	○32 (16-13/16-13) 26	○25 (11-3/14-8) 11	2-0-2	110	105	5	4
4位	タイ	×17 (10-22/7-24) 46	×16 (7-18/9-23) 41	×26 (13-16/13-16) 32	*******	○31 (19-7/12-9) 16	1-0-3	90	135	-45	2
5位	ヨルダン	×11 (4-19/7-24) 43	×13 (5-19/8-26) 45	×11 (3-11/8-14) 25	×16 (7-19/9-12) 31	*******	0-0-4	51	144	-93	0







10　最後に

今回の大会参加に際し、多くのハンドボール関係者から応援を頂き、また、高校の大会前後の大事な時期に選手を派遣して下さった各校に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

打倒韓国は、全日本フル代表だけの問題ではありません。我々ユースの若い世代からも強い意識と誇りを持ち向かっていく覚悟です。今後ともご指導、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

[選手名簿]

	名　前
団長	高田比呂美
ヘッドコーチ	繁田順子
コーチ	岡本　大
ドクター	有田　忍
トレーナー	小西達也

1	名渕 友紀	高松商業高校
2	渡辺 裕奈	夙川学院高校
3	一木 ゆかり	栃木商業高校
4	大谷 佳奈美	神戸星城高校
5	小舘 美紀	暁学園高校
6	塩野 真悠	小松市立高校
7	中村 光代	文大杉並高校
8	宮本 夏澄	松橋高校
9	山根 瑠美	華陵高校
10	竹下 佳慧	四天王寺高校
11	岡田 あずさ	華陵高校
12	松村 あすか	小松市立高校
14	加納 明帆	大曲農業高校
15	林　るうな	名古屋市立向陽高校
16	白石 さと	四天王寺高校

■参加選手のコメント

キャプテン　大谷佳奈美（神戸星城高校）

私たちユースメンバーは、2回の合宿を乗り越え、チーム一丸となって今回のユースアジア予選大会に臨みました。

ヨルダン、タイには大差で、カザフスタンには体型やパワーの違いに圧倒されながらもなんとか勝利を収めることが出来ました。

大会中でもチームがまとまらなかったり、いろいろ不安要素がありましたが、持ち直して韓国戦に挑みました。しかし、前半はリードしておきながらも後半で韓国の強いメンタル面やテクニックに押され、逆転されてしまい惜しくも1点差で負けてしまいました。負けてしまいみんな本当に悔しい思いをしましたが、得たものはたくさんあります。私はもう絶対に韓国に負けたくないと思ったし、今まで以上に、うまくなりたいと強く思うようになりました。みんなも同じ思いを持ったと思います。なので、この悔しい思いを忘れずに、またこの大きな舞台で力を発揮できるように、各自しっかりトレーニングを積んでいきたいと思います。

私はこのチームでキャプテンを務めたことを本当に誇りに思います。この経験を生かして私たちはまたこれから頑張っていきたいと思います。

GK　名渕友紀（高松商業高校）

ヨルダン、カザフスタン、タイ、韓国の4カ国で争ったアジア予選。どの国もアップから気迫がこもっていた。

決勝での韓国戦、前半は皆動きが良くリード、後半は4点差で始まった。しかし相手は韓国なので油断できない。後半の30分間、ずっと競った試合になった。そして、ラスト3分を切って相手の逆速攻。1点差で敗れてしまった。1本のミスが勝敗を分けた。

この敗戦に、日本代表としての責任の重さを実感した。しかし、今まで一緒にやったことのない仲間と一つのチームとなり、試合できたことからは多くのことを学んだ。また、指導してくださった先生方、多くの役員の方、応援してくださった大使館や日本の皆さんには心から感謝している。これからもこの経験を生かし、今以上にハンドボールを頑張っていきたい。

高松宮記念杯第50回全日本実業団ハンドボール選手権大会

男子：大同特殊鋼（3年ぶり 15回目）、女子：オムロン（2年ぶり 8回目）が優勝

高松宮記念杯第50回全日本実業団ハンドボール選手権大会を振り返って

全日本実業団ハンドボール連盟理事長　原田 孝幸

高松宮記念杯第50回全日本実業団ハンドボール選手権大会は、愛知県ハンドボール協会様のご尽力を賜わり、7月8～12日に愛知県名古屋市にて開催いたしました。今年で50回目の開催となる本大会は、1960年に広島県で第1回の大会を開催させていただいて以降、北は北海道、南は沖縄まで日本全国各地で開催させていただいている歴史ある大会であります。このように無事に50回大会を迎えられましたのも、各都道府県ハンドボール協会様ならびに大会関係者の皆様方、協賛いただきました企業様、他数多くの方々のご尽力・ご協力の賜物であり心より感謝とお礼申し上げます。

さて、50回目を迎えた今大会は、男子は12チーム、女子は6チームの出場となりました。男子は、昨年度優勝の大崎電気、準優勝の湧永製薬、3位の大同特殊鋼、4位のHondaをシードとし、予選トーナメントを勝ち上がった4チームによる決勝リーグ戦、女子は、A・Bグループのリーグ戦後、両グループの上位2チームによる決勝トーナメントで優勝を争いました。

1回戦は、昨年の上位チーム、トヨタ紡織九州、北陸電力、トヨタ車体、豊田合成が順当に勝ち進み、2回戦へと駒を進めました。

2回戦では、大崎電気、湧永製薬、大同特殊鋼が順当に勝ち進み決勝リーグに駒を進める中、最後の1枠は、昨年と同様Hondaとトヨタ紡織九州の対戦カードとなり、一進一退の攻防のすえ、決勝リーグに駒を進めたのはトヨタ紡織九州で、昨年のリベンジを果たしました。

決勝リーグは、大同特殊鋼が湧永製薬、トヨタ紡織九州に危な気なく勝ち、2勝でファイナルへ駒を進める中、昨年度優勝の大崎電気は、トヨタ紡織九州に1点差で競り勝ったが湧永製薬には引分け、1勝1分でファイナルへと駒を進め、ファイナル終了まで順位が確定しない混戦となりました。

これまでの戦いぶりで大同特殊鋼有利と誰もが思ったファイナルでしたが、前半を16対13と大同特殊鋼が3点リードで折り返すものの、後半開始10分に大崎電気が同点とし、その後は追いつ追われつの攻防が展開されました。残り90秒で大同特殊鋼の20番・白がゴールを決め1点リードするも、残り60秒で大崎電気は19番・猪妻がゴールを決め同点としタイムアップ、辛くも大同特殊鋼が3年振り15回目の優勝を飾りました。

女子のAグループでは、昨年度優勝の北國銀行が圧倒的な強さを見せグループ1位通過を、昨年度欠場した三重バイオレットアイリスが香川銀行の追撃を交わし2位通過を決め、各々決勝トーナメントに駒を進めました。

Bグループは昨年準優勝のオムロンが安定した攻守で順当に勝ち進み、グループ1位通過を決めました。昨年3位のソニーセミコンダクタ九州は、広島メイプルレッズに競り勝ちグループ2位通過で決勝トーナメントに駒を進めました。

決勝トーナメント1回戦、北國銀行とソニーセミコンダクタ九州戦は、前半20分過ぎから北國銀行のミスが続き、ソニーセミコンダクタ九州に連続得点を許し、18対13でソニーセミコンダクタ九州5点リードで前半を折り返す。後半､気持ちを切り替えた北國銀行は、5分過ぎから4番･上町、13番・仲宗根らの8連続得点で逆転し、その後も攻撃の手を緩めることなく、終わってみれば36対27の大量リードで決勝進出を決めました。

オムロンと三重バイオレットアイリス戦は、お互いに一歩も譲らず一進一退の攻防が続き、前半残り5分まで三重バイオレットアイリスが1点リードしていました。オムロンは7番・藤井、11番・洪らの5連続得点で逆転し、前半を14対11と3点をリードして折り返しました。後半も互角の展開でしたが、前半のリードが決め手となり、27対23でオムロンが決勝へ駒を進めました。

決勝戦は昨年と同じ対戦カード、北國銀行とオムロンの優勝をかけた戦いとなりました。前半開始からオムロンが攻撃の手を緩めず、8分過ぎには8対3としオムロンが主導権を握りましたが、北國銀行も慌てることなく点差を詰め、17対14とオムロンの3点リードで前半を折り返す。

後半に入りオムロンは7番・藤井、9番・坂元の連続得点で北國銀行を引き離し、リードを保ちながらそのまま逃げ切り2年振り8回目の優勝を飾りました。オムロンの7番・藤井は12得点をあげる大活躍でした。

全日程を通して、男女ともに今まで以上にスピーディーかつパワフルなプレーが多くみられ、日本のハンドボールのスタイルが大きく変化しつつあるのではないかと感じた今大会でありました。

個人賞

▼優秀監督賞
〈男子〉清水　博之（大同特殊鋼）
〈女子〉洪　廷昊（オムロン）

▼MVP
〈男子〉白　元喆（大同特殊鋼）
〈女子〉藤井　紫緒（オムロン）

▼ベストセブン
〈男子〉
東　直明（大同特殊鋼）
末松　誠（大同特殊鋼）
武田　享（大同特殊鋼）
浦和　克行（大崎電気）
猪妻　正活（大崎電気）
豊田　賢治（大崎電気）
東長濱　秀作（湧永製薬）
〈女子〉
藤井　紫緒（オムロン）
洪　廷昊（オムロン）
坂元　智子（オムロン）
田代　ひろみ（北國銀行）
上町　史織（北國銀行）
宮前　薫（北國銀行）
橋本　寛子（三重バイオレットアイリス）

▼最優秀新人賞
〈男子〉谷村　遼太（湧永製薬）
〈女子〉村山　絵理奈（広島メイプルレッズ）

男子優勝：大同特殊鋼

大同特殊鋼監督　清水 博之

お陰様をもちまして、高松宮記念杯第50回実業団ハンドボール選手権大会で3年ぶり15回目の優勝を飾ることができました。大会を開催、運営するにあたりご尽力いただいた関係者、会場まで足を運んでくださり最後までご声援くださったファンの皆様方に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今大会は大同特殊鋼フェニックスにとっても色々な節目が重なった大会でもあり、何とか優勝したいという気持ちで挑んだ大会です。①地元開催、②今期初タイトル、③新チーム、④2年連続3位、⑤50回記念大会など、多くの節目でありました。

初戦の北陸電力戦で前半同点と苦しめられたものの、何とか勝利して決勝リーグへ進みました。過去2年間、得失点差・最後のワンプレーで順位が変わるという苦い経験もあり、決勝リーグでは1点を大事に闘うようチームで意思統一して臨みました。

成績は2勝1分でかろうじて優勝する事ができましたが、最終の大崎電気戦では粘り強く得点はするも、クイックスタートに対応できず、最後の最後までどちらが勝つか分からない苦しい展開となりました。最後は何とか引き分けに持ち込むことができましたが、諦めずに闘い抜いてくれた選手に感謝の気持ちでいっぱいです。

選手ひとり一人を振り返ると、4試合フル出場の末松・武田選手、トップDFからFBで走り回った千々波選手、勝負どころで得点し流れを戻した白選手、膝を負傷しながらも身体を張って闘った渡久川・地引選手、途中出場でスーパーセーブを連発したGK東選手、主将としてチームをまとめた高木選手、要所で得点をした岸川・山城選手、声でチームを盛り上げた浦田選手、切れのあるロングシュートを決めた松永選手、新人らしい思い切ったプレーで勢いつけた野村・熊谷選手、怪我のため試合に出場できなかったがビデオ撮影分析で貢献した田中選手、他の選手、コーチ、主務、全員がチームのために役割を果たしてくれたと感じております。

幸いにも09年度最初の大会で優勝という最高のスタートをきることができ、嬉しく感じておりますが、この結果に満足することなく、更に心技体戦術に磨きをかけて、日本のハンドボールファンの方々、初めてハンドボールを観戦する方々へハンドボールの面白さ、魅力を十分に伝えられるよう選手共々精進していきます。

温かいご声援ありがとうございました。これからも大同フェニックスをよろしくお願い申し上げます。

女子優勝：オムロン

オムロンヘッドコーチ　洪 廷昊

2009年度最初の実業団大会に、新体制で試合に臨みました。試合の準備をする約2ヶ月間、全日本活動などもあり、チームが揃って練習する時間がなかなか取れず、色々な戸惑いや不安もありました。しかし、体力強化トレーニングや、精神力を高めるトレーニングとチームプレーを中心とした練習を行い、選手にとっては大変辛い2ヶ月間だったと思いますが、全員が妥協せず乗り越え、危機感を持って試合に臨んでくれたことが、今大会の優勝という結果に結びついたと感じています。

大会が始まってからは、試合を重ねていくうちに、沢山の課題がでてきましたが、その都度、全員で課題解決していった事がチームが一つになり、その壁を乗り越えられたことが、今後に大変プラスになったと感じています。

今大会で得たものを基に、これから続く国体・総合・リーグと、毎回出た課題をしっかり修正した上で満足する内容と、観に来てくださる人達にも感動を与えられるような試合をしていきたいと思います。

最後に、このような厳しい社会環境の中でハンドボール活動ができる事、また日々変わることのない多くのサポーターの方々のご声援、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

この感謝の気持ちを忘れることなく、今後も頑張っていきたいと思います。






ワールドゲームズ2009 高雄大会 ビーチハンドボール競技（女子）

参加報告　　団長　川上 整司

■はじめに

人気度に関係なくスポーツの世界戦となると、どうしても国対国の対決になって大いに盛り上がるのは言うまでもない。ワールドゲームズ高雄大会ビーチハンドも同様に灼熱の太陽の下で大熱戦が展開された。

オリンピック種目でないスポーツは世界に無数と言えるほどあり、最初は遊びやスポーツで世界の友好親善を目的としたのだろうが、どうしても競う中では競技化され、組織化されてしまうものである。この大会もオリンピック種目に勝るとも劣らないレベルの高い競技団体もあり、さながら小オリンピックのような部分もあった。

今回、日本チームの団長として参加したが、前回の大会を観戦された日本協会・川上専務理事から、一度世界大会を見れば必ずその魅力を感じるであろう、と言われていたが、実は半信半疑だった。ビーチという海辺の遊びを競技化した程度であろうと内心思っていたが、「百聞は一見にしかず」で、大会に参加して、それは大きな間違いであったことを知った。

最後に男子の決勝を見て、この競技は凄まじい。これからどう発展するのか、言葉では表現不可能なほどで、夢をみているような心地で本当に素晴らしいスポーツを観た。

日本協会もビーチハンドに対する課題は残されたまま。今大会には、将来を嘱望される田中常務理事と日本国内で多くのチームコーチを経験し、ハンドボール界に貢献しているローランド氏、そしてトレーナーには、ハンドに精通し日本協会医科学委員の沖本氏の３名で構成された。

選手は日本リーグ強豪２チームのご協力をいただき、オムロンから市村、永田、松本、山中の４名、北國銀行から上町、宮前、若松、佐久川の４名とビーチハンドの代表として木下（茨城キリスト教学園教員）、望月（東海大学学生）の10名で参加した。

日本リーグの選手たちの加入で強化されたのは確実であるが、如何せん練習日時がなく、どんなに基礎的運動能力に優れていても簡単にこなせるものではない。７人制では日本リーグの選手たちがハンドボール技術においてはビーチの木下、望月よりも高い水準にあるだろうが、このビーチハンドの技術では、この２名のほうが当然ながら一日の長があった。

田中監督は、７月14日～16日の短期間の合宿でビーチハンドボールの基礎技術習得を目標にしたが、時間がないため、ほとんど練習試合の中で確認し合い、個人の技術練習もそこそこに午後は成田に向かい、19時発で台湾・高雄空港に23時着、ホテル（高雄国軍英雄館）に24時近く到着、ミーティングのみで就寝させるという強行軍だった。日本チームとしては、チームワーク、攻防の方法など作戦においては相手チームも見えず、世界のレベルも掴みどころがなく、監督・コーチは共に大変苦労していた。

17日の練習日は、細かなテクニックまでは時間的に無理だったが、さすがに上町選手を中心とする面々はボールコントロールに長けており、身体運動能力の高さは充分に感じられた。しかし足場が板ではなく砂の感覚には、ボディコントロールが利かず、大変苦労していた。パスの角度に対して身体が遅れる始末で、なかなかうまくコンビもとれないまま練習はすべて終了した。

18日、いよいよ試合の日。組み合わせはA組（４ケ国）、B組（４ケ国）に分かれ、予選リーグ、決勝トーナメント、順位決定戦と行われた。

日本はB組で、日本、イタリア、クロアチア、タイの４ケ国。A組はブラジル、マケドニア、チャイニーズタイペイ、ウクライナの４ケ国。

■試合結果

[第１戦] 日本対タイ

1st　11：14／2nd　12：11／Shoot out　6：10

７人制のように前後半の合計ではなく、ビーチはセットごとであり、１対１になればショットアウトと言ってPTのように交互に試技する。この方法は７人制の練習でよくやっているワンマン速攻のようにシューターがボールを持ち、GKにパスを返して走り、GKからロングパスを受けてシュートする方法と同じだが、これには得点を２点と１点とがある。１回転して決めれば２点、７人制そのままのシュートだと１点となり、当然これは２点に挑戦しなければ不利になる。

この試合は、１セットはタイ、２セットは日本で１対１となり、ショットアウトとなった。日本は完全に不利となった。なぜならば回転シュートを習得していないからで、木下、望月は練習していたが７人制の選手たちにはなかなか難しい技である。それでも頑張って３人はゴールしたが、相手チームはよく練習していて得意のシュートで全員が決め10点となり、日本は初戦を飾れなかった。

（木下、望月、上町、宮前、若松、佐久川、永田、山中）

[第２戦] 日本対クロアチア

1st　5：18／2nd　6：22

前半、後半共に練習量の差は歴然たる事実であった。

（木下、望月、上町、宮前、佐久川、市村、松本、山中）

[第３戦] 日本対イタリア

1st　13：27／2nd　3：15

イタリアは優勝候補筆頭で、総てが見事で、残念ながら何をする術もなかった。

（木下、望月、上町、若松、佐久川、市村、永田、山中）

[順位決定トーナメント1回戦] 日本 対 ブラジル

1st　3：15／2nd　9：11

日本はB組4位、相手ブラジルはA組1位の対戦となった1セットは、力の差は如何ともしがたく12点差をつけられた。後半に入ると日本は調子をあげ、互角の勝負をしたが、2点差を詰めきるまでには至らなかった。しかし敗れはしたが、善戦した試合であった。

（木下、望月、上町、若松、佐久川、市村、永田、山中）

[順位決定5～8位決定戦] 日本 対 ウクライナ

1st　8：17／2nd　8：17

A組1位のブラジルに敗れた日本とB組2位のクロアチアに敗れたウクライナの対戦。勝てば5位決定戦のチャンスは残されていたが、ビーチハンド慣れしたウクライナの攻防に隙はなかった。

（木下、望月、上町、宮前、若松、佐久川、永田、山中、市村、松本）

[7位決定戦] 日本 対 タイ

1st　12：10／2nd　10：9

この試合には何が何でも勝利しなければとスタッフ、選手一体となって臨んだ。試合は最終戦、日本は1勝もしていない。同じB組の3位、4位で、リーグ初戦で対戦、日本が敗れている。

1セットは終始リードで先行し危なげなかったが、第2セットに入ると少々コンビがつながらず、6～7分経過で4点と大きく差がついてしまった。残り時間がないので7人制ならば逆転は無理な状態。しかしビーチには2点制がある。全員一つになって必死に詰め寄る。その姿は最後まで日本代表として1勝しなければ責任を果たせないという表情に見えた。時間ぎりぎりで漸く同点に持ち込みはしたが、6mスローをとられ絶体絶命のピンチとなった。しかしそこにはハンドの女神がいた。固唾を呑んで見守る中、運命のシュートは打たれた。その瞬間、何とGK山中は腰を落としてしっかりとキャッチし、9対9のままその勢いで1点先取して試合をものにした。

ベンチも選手も言葉で表現できない有り様で、コートに身体表現をしながら、あたかも優勝でもしたかのようにウイニングランまでし、最後の最後で1勝し、スタッフも選手も、そして日本から応援に来てくださった方々全員で喜びを分かち合った。ありがとう、選手たち、よく頑張ってくれた。確かに日本代表だった。10日間で最も美しい表情の一瞬だった。「ご苦労様」こうしてひとつの夏が終わった。



【最終順位】
①イタリア②クロアチア③ブラジル④マケドニア
⑤チャイニーズタイペイ⑥ウクライナ⑦日本⑧タイ

■おわりに

この大会に参加するにあたり、関係各位に大変お世話になりました。特に千葉の本間誠章先生には、練習から宿泊までご多忙中にもかかわらずビーチ日本代表女子の面倒を3日間みていただき、そして成田空港までお送りいただき、まことに有難く厚く御礼申し上げます。先生自らコートをつくり、ゴールポストも何組もそろえ、クラブハウスなるものまで自費で完成させた、正にビーチハンドの生みの親とも言える本間先生に感謝いたします。また、突き刺すような太陽の光の下で連日お相手してくださったクラーク記念国際高校の松坂先生と部員の皆様にも心から御礼申し上げます。そしてこの大会に日本リーグ等の強化期間の大事な時期に選手をビーチに参加させていただき、チーム編成に協力いただいたオムロン、北國銀行の両チームのスタッフの皆様に心より感謝申し上げます。またビーチハンドの木下先生には、学期末のお忙しい中、また学生である望月さんも前期の大事な時期にもかかわらず参加いただき有難うございました。

最後になりましたが、猛暑の中、千葉、兵庫のビーチ関係の皆様にも応援いただき誠に有難うございました。厚く御礼申し上げます。

第29回全国クラブハンドボール選手権大会 西地区大会

男子　優勝：ＰＦ須磨東クラブ　２位：総社クラブ　３位：チームフォルス

女子　優勝：ＨＣ岡山　２位：御座候　３位：ninfa・kagoshima

大会を振り返って

愛媛県ハンドボール協会競技部長　田鍋 由朗

平成21年7月18日～20日、梅雨の合間のじめじめとした季候の中、愛媛県松山市において、第29回全国クラブハンドボール選手権大会西地区大会が開催されました。前年同様、各ブロック（東海・近畿・中国・四国・九州・開催地）代表の、男子12チーム、女子8チームが出場し、熱戦を繰り広げました。

来る平成29年には、愛媛県にて「えひめ国体」が開催されます。県を挙げての準備が着々と進み、ハンドボールへの競技熱もますます高まってきている中での今大会の開催となりました。

7月18日に開会式および審判会議、代表者会議が行われました。試合進行の遅れが懸念されたことから、出場チームの了承を得て、今大会は「タイムアウトなし」というルールで実施することになりました。

翌7月19日より競技が開始され、男子は3チームずつの4ブロックに分かれての予選リーグ、女子はトーナメント戦による準決勝までが行われ、どれも白熱した試合が展開されました。

最終日の7月20日は決勝トーナメントのほか、順位決定戦が行われました。開催地枠で出場した男子のＨＣ愛媛Armadaは5位、女子の松山ＨＣは6位に入るなど健闘を見せました。

男子準決勝の総社クラブ（中国）対チーム・フォルス（近畿）は、固い守りとＧＫの活躍でロースコアの展開となり、互角の力を見せましたが、最後まで粘り強く守った総社クラブに軍配が上がりました。ＰＦ須磨東クラブ（近畿）対アローズ高知（四国）は前半を同点で折り返しましたが、ＣＫの好セーブでアローズ高知に得点をなかなか許さなかったＰＦ須磨東クラブが勝利しました。決勝は、ＰＦ須磨東クラブが開始5分で5点を連取し、総社クラブを苦しめました。しかし､総社クラブも意地を見せ､後半17分には逆転しましたが、結局ＰＦ須磨東クラブが優勝を飾りました。

女子決勝は、ＨＣ岡山（中国）対 御座候（近畿）となり、両チームとも落ち着いた立ち上がりで互角の試合展開となりました。後半に入っても、御座候の巧みなパス回しからの得点、ＨＣ岡山の堅守からの速攻と、それぞれの持ち味を生かした好プレイが光りました。ＨＣ岡山は、迫る御座候を突き放し、終始リードを保ったまま1点差で優勝を飾りました。

今大会の開催にあたり、関係各位のご協力により無事に大会終えることができました。心より謝辞を申し上げます。誠にありがとうございました。

■男子決勝

PF須磨東クラブ　21（8-12, 13-7）19　総社クラブ

PF須磨東クラブのスローオフでスタート。総社クラブは開始5分過ぎまでに速攻、ロングシュート、7mTで5点を連取。その後PF須磨東クラブは、総社クラブのGKの好守に遭いつつも、速攻、サイドシュート、ロングシュートで巻き返し、得点を積み重ねるが、シュートを確実に決める総社クラブが前半を4点リードし終了する。

後半に入り、PF須磨東クラブはGKの好セーブと打点の高いシュートなどで点差をじりじりとつめ、17分過ぎに逆転。その後、一進一退の攻防が続いたが、最後は2点差をつけたPF須磨東クラブが勝利した。

両チームともスピードがあり、攻守のバランスもよく、好ゲームを展開した。

■女子決勝

HC岡山　25（14-11, 11-13）24　御座候

前半、両チームとも落ち着いた立ち上がりで互角の試合展開となった。15分過ぎ、HC岡山の14番阿部の速攻、4番守安のロングシュートで一歩リードし、主導権を握った。御座候も3番斎藤のサイドシュートなどで食い下がるが、3点ビハインドの折り返しとなった。

後半に入ってからも、御座候は巧みなパス回しから得点、HC岡山は堅守からの速攻と、持ち味を生かした試合運びを見せた。中盤、御座候の15番玉山の連続得点で1点差に迫ったが、HC岡山は14番阿部の7mTで突き放し、終始リードを守ったまま1点差で勝利をおさめた。

男子：ＰＦ須磨東クラブ

ＰＦ須磨東クラブ監督　上田 大介

私たちＰＦ須磨東クラブは、兵庫県協会に所属しています。平成５年にチーム結成して以来、17年目にして初めて大きなタイトルを獲得することが出来ました。

今大会は予選から決勝まで、いずれも苦戦を強いられるものばかりでありましたが、ベンチ入りメンバー13名がそれぞれ自分たちの役割を果たし、モチベーションを持ち続けることにより、チーム一丸となって勝利することが出来ました。特に決勝においては、前半開始５分で５連取され、その後も点を取っては取り返されるという決して良いゲーム展開ではありませんでしたが、辛抱強くディフェンスをし、後半途中に追いついて逆転するという、これまでに無い形の試合運びをし、勝利することが出来ました。いずれも「守って速攻」というチームスタイルを目指し練習してきたことが、今回の勝利に結びついたものと確信しております。

この優勝を機に、ジャパンオープンへの出場・勝利とさらに上を目指して活動を続けていきたいと思います。

今回の優勝を、チームの選手・役員をはじめ兵庫県協会関係者の皆様、そして何よりもこれまでＰＦ須磨東クラブに関わってきていただきました全ての方々と共に、この喜び分かち合いたいと思います。

この場をお借りしまして、関係各位に改めて御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します。





女子：ＨＣ岡山

ＨＣ岡山　高橋 敦子

まずは、競技役員並びに審判員の方々をはじめ大会運営に携わって下さいました関係者各位に深くお礼を申し上げます。

私たちＨＣ岡山は、クラブチームではありますが、社会人と学生とが混ざった少々変わったチームです。同じ県内とはいえ、一緒に練習する時間もほとんどなく、不安を抱えたまま今回の大会に参加させて頂くことになりました。運良く決勝まで勝ち進むことができ、また、優勝することができたことをチーム一同、本当に嬉しく思っています。

２日間で３試合と少々ハードな日程ではありましたが、メンバー全員で頑張ることができました。初戦からどれも苦戦を強いられ、特に決勝の大阪：御座候戦では試合終了間際まで点差が開かず、結局１点差で辛くも勝てた…という内容でしたが、その分喜びも倍増でした。

私たちは、試合を重ねることで少しずつお互いの動きを確認しているような状況で、まだまだ即席のチームではありますが、今後も県内・外を問わずいろいろな大会に参加し少しでも良い結果を残していけたらと思っています。学生の頃と違いクラブチームの大会は決して多くありません。また、実業団のようにリーグ戦があるわけでもない私たちにとっては、今回のような大会の一つひとつがモチベーションを上げるための大事な大会でもあり、楽しみの一つでもあります。今後もこのような大会が途絶えることなく、益々発展していくことを願っています。大会関係者の皆様、本当にありがとうございました。

８年後、この松山で開催されます愛媛国体が大いに盛り上がり、素晴らしい大会となりますように。





第29回全国クラブハンドボール選手権大会 東地区大会

男子 優勝：渡辺組　2位：FST　3位：法政二OB・学石クラブ
女子 優勝：福島クラブ　2位：REDS　3位：かぶら女子・SAKURAクラブ

大会を振り返って

福島県協会事務局　飯塚 敏章

今年で14回目の開催地となりました福島県本宮市は智恵子抄に歌われた安達太良山が最も美しく眺望でき、ゆったりと北上する阿武隈川のある自然に恵まれた場所であり、高速交通網の発達や4号国道の拡幅などにより南東北地方でも有数の流通拠点となっています。

その魅力溢れる本宮市で今年も第29回全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会が盛大に開催されました。さらに、今大会も日本ハンドボール協会公認審判員A級審査会の舞台になったことで一層緊張感のある大会に。

さて、各ブロック予選を勝ち抜いた強豪チーム（男子16チーム、女子8チーム）が力と技を競い合い、記憶に残る熱いゲームが展開されました。男子では前年度優勝の法政二OBや準優勝のFSTが出場するなど見どころたくさんの大会であったと思います。

会場には全国トップレベルのプレーを観戦しようと多くのハンドボール愛好者が集い、選手たちに熱いエールを送ってくれましたこと、協会一同、衷心より御礼申し上げます。また、全国各地から日本ハンドボール協会公認審判員A級合格を目指し来福されました受検生の皆さま、日本ハンドボール協会審判審査指導委員の皆さま、本当にお疲れさまでした。

■男子決勝

渡辺組　23（11-11、12-11）22　ＦＳＴ

準決勝戦では前年度優勝の法政二OBを撃破し、勢いづいたFSTと地元・学石クラブとの準決勝戦を大差で勝利した渡辺組という関東チーム同士の対決となった決勝。

FSTのスローオフで前半が始まり、開始26秒に渡辺組13番渡辺がシュートを決めると、その14秒後にFST8番吉野がシュートを決めるなど展開の速いゲームとなった。警告は受けつつも一人も退場者を出さず、クリーンなハンドボールが展開されたが、両チームとも相手を突き放すまでの決定打がなく、前半は11対11の同点で折り返す。

後半も互いに譲らず、膠着した試合が続くと思われた3分過ぎ、渡辺組5番高野のシュートが決まり出すと一気に攻撃力が集中したのか、6番藤原・8番中野・7番熱海など6連続得点に成功。後半の主導権をとった渡辺組に対し、追いかけるFSTは7番香田や11番伊藤の華麗なシュートで反撃するものの、要所で後半から出場した渡辺組GK12番金林のファインセーブに阻まれ、逆転できなかった。試合終了のブザーを聞いた瞬間、渡辺組の選手らは大喜びするとともに、恩師の渡辺靖弘先生と抱き合うなど大喜びであった。



■女子決勝

福島クラブ　24（16-8、8-10）18　REDS

関東ブロック予選2位のかぶら女子ハンドボールクラブを準決勝で倒し、決勝へコマを進めたREDSと準決勝戦では前年度第3位・執印監督率いるSAKURAクラブを終始リードし、勝利を収めた地元福島クラブが決勝で対戦。

福島クラブのスローオフで始まった前半、福島クラブ8番大河内・4番吉田・3番橘の3連続得点でゲームがスタートし、9分過ぎまでに8対4と福島クラブがリードするとREDSは堪らずタイムアウト請求。タイムアウト後も福島クラブの流れは止まらず、ここから6連続得点をあげ16対8福島クラブ8点リードで前半終了。

後半になり、落ち着きを取り戻したREDSは3番山崎7番永田のミドル・カットインシュートが決まりだし、点差を縮めるが、追いつめられた福島クラブも得意のセットオフェンスで確実に点数を重ね、逃げ切った。12年ぶり2回目の優勝をした福島クラブは新加入した8番大河内と抜群のセンスを持つサイドシューター3番橘で14点をたたき出すなど、近年にない破壊力が印象的であった。



～詳細なGKデータを～

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw フリースロー

日本リーグが開幕、年末に中国で女子世界選手権の足音も次第に大きく聞こえてくる時期になるなど、球界のオクターブもいっそう上がってきている。

そうした中で以前から気になっているのがGKのデータだ。全般に球界の記録には物足りなさは感じるが、とりわけGKのデータは少々寂しすぎるのではないだろうか。

日本リーグの過去の歴史を振り返ってみても、7㍍スロー阻止率賞という表彰部門はある。しかし、タイトルが設けられたのは、第16回になってからだ。それも阻止率でなく阻止数だった。現在の阻止率になったのは、それから13シーズン後の第28回からになる。

もっと言えば、阻止数のデータすら最初はなかったのだから、無理からぬ話かもしれない。シュート率すらないのだから、ましてや－と言えるかもしれないが、あまりにもお粗末だった。

GKというポジションは決して派手ではない。だが、相手の攻撃を阻む最後のトリデ。最終関門として重要なポジションである。だからこそ彼らのプレーを的確に評価するデータは欠かせない。

酒巻監督のアイデアで日本代表GKらによるマニュアルの作成に乗り出した。国際舞台で活躍するには、GKの存在が絶対と言う捉え方かもしれないし、GKを目指す人たちには大いに参考になるはずだ。

そうしたことからも、GKの存在をアピールする詳細なデータ収集をすべきであろう。現在、GKのデータと言えば、7㍍スローに関する阻止数と7㍍スローを受けた数だけだ。（いわゆる阻止率）。フィールドシュートを受けた本数や阻止数などはまったく記録されていない。

7㍍スロー阻止率だけでGKの評価ができるわけでもなく、シュート阻止率も試合を左右するためには重要な要素ではないかと思う。

また、日本協会の公式記録には、CPを含めて出場時間の記述がない。何分コートに立ったかは記録として残しておきたい事項の一つである。

国際試合ではなおさらである。国際連盟の記録様式を参考にして、出来る限り個人データを詳細に記述する様式への改訂が必要だ。

個々の試合数にしても、ベンチ登録と同じではあまりにも大雑把。詳細なデータを取りまとめることは、プレーヤーを高く評価することにもつながってくることである。選手を大切にする意味からも、まずGKのデータに光を当てたい。

機関誌の表紙に観る「全日本代表チーム」の歴史



1972年8月号　ミュンヘンオリンピック男子代表（駒沢オリンピック公園）



1973年12月号　第五回世界選手権女子代表（代々木公園）



1976年9月号　男女揃って出場のモントリオールオリンピック（男子代表の試合から）



1980年7月号　幻のモスクワオリンピック男子代表（東京都体育館）

オリンピックへの出場は、日本ハンドボール界全体の祈願であるが、過去に男子は5大会連続（1972年のミュンヘン・1976年のモントリオール・1980年の幻のモスクワ・1984年のロサンゼルス・1988年のソウル）、女子は1976年男子とのアベック出場のモントリオールに出場してきた。日本協会の機関誌の表紙を観てもその歴史が窺われる。ロンドンに向っては男女日本代表が、表紙を飾るのを待ち望みたいところである。



1987年9月号　ソウルオリンピック出場権獲得（男子代表）



1983年12月号　男子ロサンゼルスオリンピック出場権獲得の瞬間



2007年8月号　北京オリンピックを目指す男女代表



1996年4月号　オルソン率いる男子代表スタート

平成 21 年 3 月 14 日・15 日の両日、駒澤大学において、第７回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。本研究会は、全国指導者が自身の経験や・知見を持ち寄り、実際の現場で有用な情報を共有する機会として位置付けられています。
研究会の発表内容については、本誌で連載報告していただく運びとなりました。
今月は清水宣雄先生（国際武道大学）の発表内容「学生トップチームの戦術プレイに関する考察」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で報告を連載いたします。

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

学生トップチームの戦術プレイに関する考察

清水宣雄（国際武道大学）

キーワード：学生トップチーム、戦術プレイ、パス回転、ロジスティック回帰分析

抄　録

大谷武一氏が 1922 年にハンドボールを伝えて八十数年。認知度の更なる向上には、他の球技に優るとも劣らない、ハンドボールの「おもしろさ」を再確認し、世間一般に訴えていく必要がある。その実現のためには、ハンドボールの「おもしろさ」について、早急に活発な議論がなされなければならない。本研究はその議論の口火として、話題を提供するものである。

ゴール型球技においては、集団的技能が重要視され、学習指導要領においても、作戦を生かした攻防を展開することが求められている。ハンドボールは、ボールの扱いが容易であることから、早い段階から戦術プレイを展開することが可能であり、より高度で多彩な戦術プレイも期待できる。この高度な戦術プレイこそが、他の球技に対抗できる「おもしろさ」なのではないだろうか。

本研究では、シュート局面でのゴールキーパーに対する、有利な状況作りに限定して、分析を行った。そのために、シュート直前のパス回数を数え分析した。

2007 年度全日本インカレにおいて、男子ベスト 4 となった大学が出場した全日本総合選手権大会の 1 回戦、3 試合を分析の対象とした。撮影した動画データを、デジタルビデオ分析システム（Sportstec 社製 SportsCode GameBreaker Plus）を用いて、シュートのボール・リリース・ポイントから 5 秒間遡って抽出し、パス回数を分析した。

本研究においては、質的データの回帰分析を行う方法として、臨床実験や疫学調査研究等において、広く用いられてきた手法である、ロジスティック回帰分析を行った。

以下の結果を得た。

シュート直前 5 秒間の最大パス回数は 5 回であった。

シュート直前のパス回数が多い程、ゴール率の向上が期待できる。

ゴール率が高い場合には、顕著な向上は期待できない。

相手の防御が優位である場合には、パス回数を増やしても、ゴール率の向上は期待できない。

1. はじめに

大谷武一氏が 1922 年にハンドボールを伝えて 85 年、2007 年程ハンドボールがマスコミに注目されることは無かった。北京オリンピック・アジア予選における、「中東の笛」と呼ばれる不公正な判定を巡り、国際ハンドボール連盟総会において、前代未聞となる予選のやり直しが決定され、韓国との代表決定戦に一万人を上回る観客が動員された。

残念ながら韓国に敗れ、代表権を得ることはできなかったが、ハンドボールの認知度を向上させる千載一遇の好機を活かすためには、他の球技に優るとも劣らない、ハンドボールの「おもしろさ」を再確認し、世間一般に訴えていく必要があると考える。

ハンドボールの「おもしろさ」は多彩であり、見解を統一することは困難であるかもしれない。しかし、より効果的に訴えていくためには、強調するべきものを絞り込み、ハンドボール界全体で推し進める必要がある。

即ち、指導者はそのプレイを教え、プレイヤーはそのプレイに磨きをかける。ベンチはそのプレイが出現するような戦術を組み立て、レフェリーはそのプレイを引き出すような笛を吹く。そのような姿が望ましいものと考える。

その実現のためには、ハンドボールの「おもしろさ」について、早急に活発な議論がなされなければならない。本研究はその議論の口火として、話題を提供するものである。

(1) 一対一の攻防局面

「ハンドボールの基本は、一対一の攻防である。一対一が突破できれば、隣のディフェンスを引き付け、数的優位を作ることができる。一対一を守ることができれば、ノーマークでシュートを撃たれることはない。」という意見がある。

一見、非の打ち所の無い考えであるが、一対一の攻防能力に劣るプレイヤーは、どうすれば良いのであろうか。格下のチームは格上のチームに、どう対抗すれば良いのであろうか。

また、次のような指導を目にすることがある。「一対一だろう。

なんで抜けないんだ。」「一対一だろう。なんで守れないんだ。」自チームのプレイヤーには、絶対に、抜くこと・守ること、を求め、相手プレイヤーは絶対に、守れないこと・抜けないこと、が前提となっている。正に矛と盾、矛盾する話ではないだろうか。

そもそも、一対一の攻防局面を、ハンドボールの「おもしろさ」として訴えた場合、他の球技に対抗できるのであろうか。同じゴール型球技である、バスケットボール、サッカー、と比較してみたい。

ハンドボールの一対一の攻防局面において、攻撃プレイヤーがボールを失うのは、非常に希である。一方、上記の球技においては、一対一の攻防局面において、攻撃プレイヤーは常に、ボールを失うリスクを抱えてプレイしている。

そこに、リスクが在るからこそ、スリリングな展開に、観客は一喜一憂するのではないだろうか。

(2) 戦術プレイの展開

ゴール型球技においては、集団的技能が重要視され、学習指導要領においても、作戦を生かした攻防を展開することが求められている。

しかし、バスケットボール、サッカーにおいては、ボールの扱いに高度なスキルが必要とされるため、戦術プレイを展開するまでに、長期間のスキル・トレーニングを必要とする。

一方、ハンドボールは、ボールの扱いが容易であることから、早い段階から戦術プレイを展開することが可能であり、より高度で多彩な戦術プレイも期待できる。

この高度な戦術プレイこそが、他の球技に対抗できる「おもしろさ」なのではないだろうか。

(3) 戦術プレイ

ハンドボールにおける戦術プレイは多彩であり、簡単に定義・分類できるものではない。そこで、本研究では、シュート局面において、ゴールキーパーに対し、有利な状況を作り出すことに限定して、分析を行った。

具体的には、ゴールキーパーの有利な位置取りを阻止するために、どのプレイヤーがシュートを撃つのか、できるだけ分かり難くするという狙いを、シュート直前のパス回数をカウントすることによって分析した。

2. 方　法

(1) 分析対象

2007 年度全日本インカレにおいて、男子ベスト 4 となった大学が出場した全日本総合選手権大会の 1 回戦、

N大学　対　T自動車

T大学　対　H高校

W大学　対　HC－A

の 3 試合を分析の対象とした。

分析対象の試合は、2007 年 12 月 20 日（木）駒沢体育館において行われ、全て学生チームが勝利を収めた。

(2) 分析方法

対象となった試合を、コート側方高所に設置された記者席スペースより、デジタル・ビデオカメラ（Sony 社製 DCR-TRV8）にて撮影し、同時に動画データとしてコンピュータ（Apple 社製 iBookG4）に取り込んだ。

動画データをデジタルビデオ分析システム（Sportstec 社製 SportsCode GameBreaker Plus）を用いて、シュートのボール・リリース・ポイントから 5 秒間遡って、動画を抽出し、パス回数を分析した。

パス回数はレシーブ時をカウントし、ピックアップ時にはカウントしなかった。

今回の分析では、速攻のシュートがボールを獲得してから、5 秒以内で撃たれるケースが見られたため、速攻は分析対象外とした。また、リバウンド・ボールからのシュート、スローオフからのクイック・スタートも対象外とした。

(3) データ処理方法

本研究において分析の対象としたデータは、シュート直前のパス回数と、ゴールしたか否かである。ゴールしたか否かを目的変数とし、シュート直前のパス回数を説明変数とした。

今回の分析においては、説明変数が量的な連続変数であるのに対し、目的変数は質的な二値変数である。そのため、普通の回帰分析を行い、離散変数である二値変数を連続変数として予測することには無理がある。[1) 2)]

そこで、本研究においては、質的データの回帰分析を行う方法として、臨床実験や疫学調査研究等において、広く用いられてきた手法である、ロジスティック回帰分析を行った。

分析ソフトとして、Excel（Microsoft 社製）のアドインソフトであるエクセル統計 2008（SSRI 社製）を使用した。

3. 結果と考察

全チームの分析結果を表 1 に示した。

最大パス回数は 5 回であった。実ゴール率は、パス回数毎にゴール数をシュート数で割ったものである。回帰ゴール率は

表１　シュート前パス回数

チーム		全チーム				回帰ゴール率
ゴール・ミス		ゴール	実ゴール率	ミス	合計	
平均		2.57		2.51	2.54	
SD		1.02		0.91	0.96	
パス回数	1回	20	46.5%	23	43	41.8%
	2回	47	44.3%	59	106	43.4%
	3回	38	37.3%	64	102	45.1%
	4回	26	57.8%	19	45	46.8%
	5回	2	50.0%	2	4	48.5%
総数		133	44.3%	167	300	

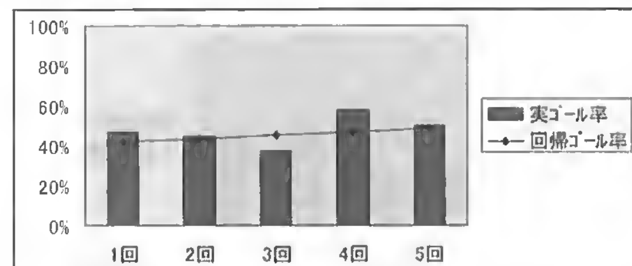


図１　シュート前パス回数とゴール率（全チーム）

ロジスティック回帰分析によって予測したものである。

表1のゴール率の値を図1に示した。

実ゴール率においては、パス回数が増加しても、ゴール率が必ずしも向上する訳ではなかった。しかし、ロジスティック回帰分析によって予測した、回帰ゴール率においては、パス1回から5回で6.7%の向上が見られた。

勝チームの分析結果を表2に、負けチームの分析結果を表3に、それぞれのゴール率の値を図2、図3に示した。

ロジスティック回帰分析によって予測した、回帰ゴール率において、パス1回から5回で、勝チームでは7.2%の、負チームでは4.4%の向上が見られた。

勝チームであるN大学、T大学、W大学の分析結果をそれぞれ、表4、表5、表6に、それぞれのゴール率の値を図4、図5、図6に示した。

3チーム共にパス回数が増加するに伴い、回帰ゴール率において、向上が見られた。しかし、N大学においては、パス1回から5回で5.5%、T大学では2.2%であった。これに対し、W

表2　シュート前パス回数

チーム		勝チーム				回帰ゴール率
ゴール・ミス		ゴール	実ゴール率	ミス	合計	
平均		2.61		2.55	2.58	
SD		0.96		0.91	0.94	
パス回数	1回	8	47.1%	9	17	50.0%
	2回	29	58.0%	21	50	51.8%
	3回	22	44.0%	28	50	53.6%
	4回	14	66.7%	7	21	55.4%
	5回	1	50.0%	1	2	57.2%
総数		74	52.9%	66	140	

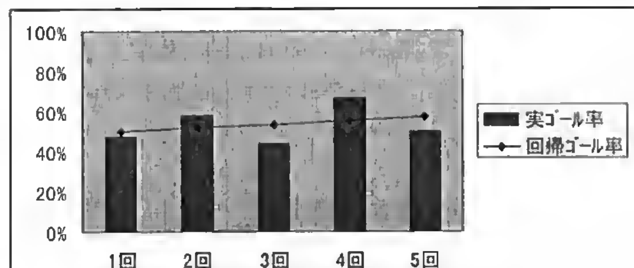


図2　シュート前パス回数とゴール率（勝チーム）

表3　シュート前パス回数

チーム		負チーム				回帰ゴール率
ゴール・ミス		ゴール	実ゴール率	ミス	合計	
平均		2.53		2.49	2.50	
SD		1.09		0.96	1.00	
パス回数	1回	12	46.2%	14	26	29.0%
	2回	18	32.1%	38	56	29.8%
	3回	16	30.8%	36	52	30.7%
	4回	12	50.0%	12	24	31.6%
	5回	1	50.0%	1	2	32.4%
総数		59	36.9%	101	160	

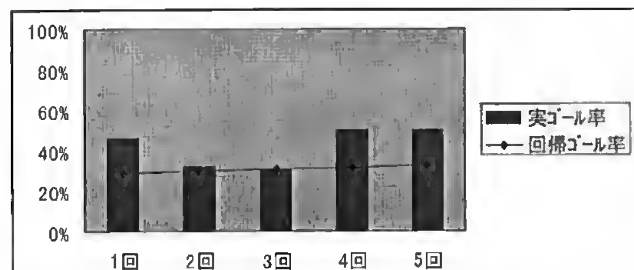


図3　シュート前パス回数とゴール率（負チーム）

表4　シュート前パス回数

チーム		N大学				回帰ゴール率
ゴール・ミス		ゴール	実ゴール率	ミス	合計	
平均		2.36		2.32	2.34	
SD		0.90		1.00	0.94	
パス回数	1回	3	37.5%	5	8	51.8%
	2回	11	68.8%	5	16	53.2%
	3回	5	41.7%	7	12	54.6%
	4回	3	60.0%	2	5	56.0%
	5回	0	0.0%	0	0	57.3%
総数		22	53.7%	19	41	

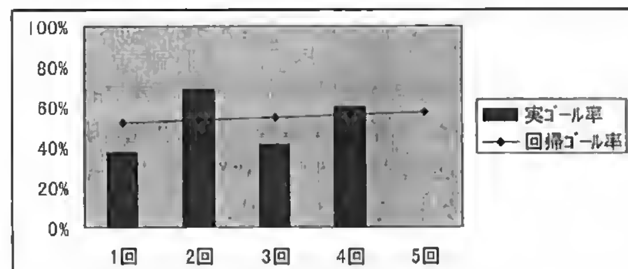


図4　シュート前パス回数とゴール率（N大学）

表5　シュート前パス回数

チーム		T大学				回帰ゴール率
ゴール・ミス		ゴール	実ゴール率	ミス	合計	
平均		2.52		2.50	2.51	
SD		0.95		0.80	0.88	
パス回数	1回	4	57.1%	3	7	56.0%
	2回	11	64.7%	6	17	56.6%
	3回	9	42.9%	12	21	57.1%
	4回	5	83.3%	1	6	57.7%
	5回	0	0.0%	0	0	58.2%
総数		29	56.9%	22	51	

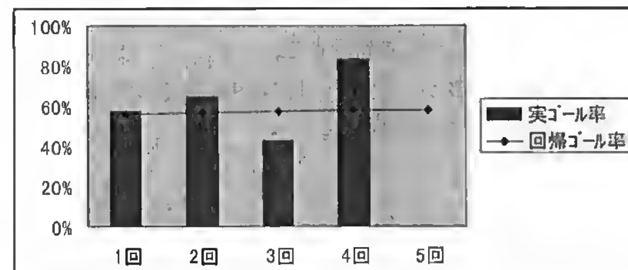


図5　シュート前パス回数とゴール率（T大学）

表6　シュート前パス回数

チーム		W大学				回帰ゴール率
ゴール・ミス		ゴール	実ゴール率	ミス	合計	
平均		2.98		2.76	2.85	
SD		0.98		0.93	0.95	
パス回数	1回	1	50.0%	1	2	37.7%
	2回	7	41.2%	10	17	43.1%
	3回	8	47.1%	9	17	48.7%
	4回	6	60.0%	4	10	54.4%
	5回	1	50.0%	1	2	59.9%
総数		23	47.9%	25	48	

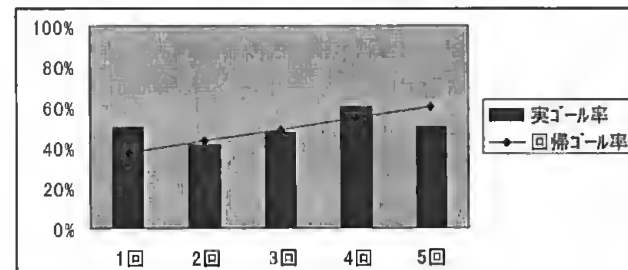


図6　シュート前パス回数とゴール率（W大学）

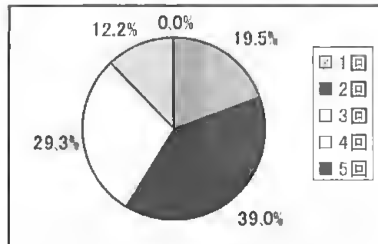


図7　シュート前パス回数（N大学）

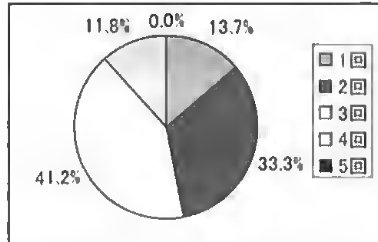


図8　シュート前パス回数（T大学）

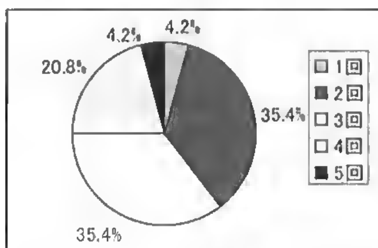


図9　シュート前パス回数（W大学）

大学では 22.2% と、大幅な向上が見られた。

この結果を分析するために、パス回数の割合に注目した（図7から図9参照）。

パス3回以上の割合を比較すると、N大学で 41.5%、T大学では 53.0% であった。これに対し、W大学では 60.4% であった。

また、実ゴール率の平均を比較すると、N大学で 53.7%、T大学では 56.9% であった。これに対し、W大学では 47.9% であった。

N大学、T大学は、少ないパス回数でもゴール率が高いため、パス回数を増やしても、ゴール率が顕著に向上することがなかったと考えられる。これに対し、W大学は少ないパス回数では、N大学、T大学ほど高いゴール率を示さなかった。しかし、パス回数を増やすことで、ゴール率が向上することが、回帰分析によって予測された。実際、試合においても、W大学はパス回数が多い傾向を示した。

同様の分析を、負チームに対しても試みた。T自動車、H高校、HC-A の分析結果をそれぞれ、表7、表8、表9に、それぞれのゴール率の値を図 10、図 11、図 12 に、パス回数の割合を図 13、図 14、図 15 に示した。

T自動車と HC-A は、パス回数が増加するに伴い、回帰ゴール率において、顕著な向上が見られた。T自動車においては、パス1回から5回で 16.3%、HC-A では 25.8% であった。これに対し、H高校は、15.3% の減少が見られた。

実ゴール率の平均を比較すると、T自動車で 40.0%、HC-A で 32.7%、H高校では 38.2% であった。

パス3回以上の割合を比較すると、T自動車で 62.0%、H高校で 40.0%、HC-A では 45.4% であった。T自動車が6チーム中、

表7　シュート前パス回数

チーム		T自動車				回帰ゴール率
ゴール・ミス		ゴール	実ゴール率	ミス	合計	
平均		2.70		2.57	2.62	
SD		0.92		0.90	0.90	
パス回数	1回	2	28.6%	5	7	33.6%
	2回	6	50.0%	6	12	37.5%
	3回	8	33.3%	16	24	41.5%
	4回	4	57.1%	3	7	45.7%
	5回	0	0.0%	0	0	49.9%
総数		20	40.0%	30	50	

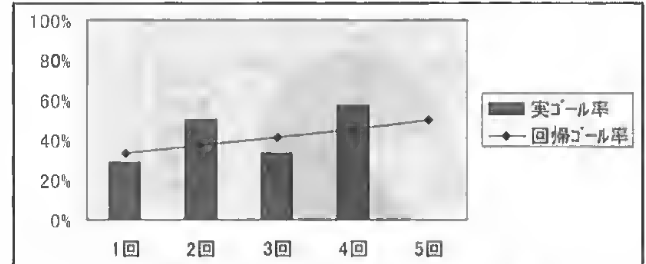


図 10　シュート前パス回数とゴール率（T自動車）

表8　シュート前パス回数

チーム		H高校				回帰ゴール率
ゴール・ミス		ゴール	実ゴール率	ミス	合計	
平均		2.29		2.50	2.42	
SD		1.23		1.11	1.15	
パス回数	1回	7	53.8%	6	13	43.6%
	2回	6	30.0%	14	20	39.7%
	3回	4	40.0%	6	10	35.8%
	4回	3	30.0%	7	10	32.0%
	5回	1	50.0%	1	2	28.5%
総数		21	38.2%	34	55	

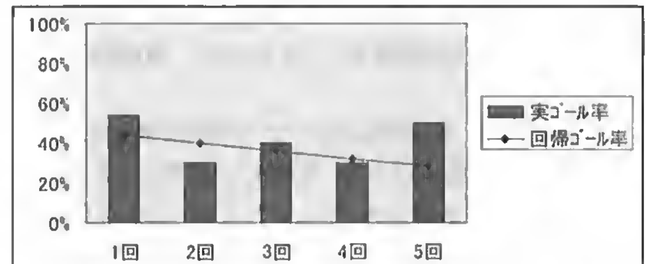


図 11　シュート前パス回数とゴール率（H高校）

表9　シュート前パス回数

チーム		HC-A				回帰ゴール率
ゴール・ミス		ゴール	実ゴール率	ミス	合計	
平均		2.61		2.41	2.47	
SD		1.09		0.72	0.86	
パス回数	1回	3	50.0%	3	6	24.0%
	2回	6	25.0%	18	24	29.6%
	3回	4	22.2%	14	18	35.9%
	4回	5	71.4%	2	7	42.7%
	5回	0	0.0%	0	0	49.8%
総数		18	32.7%	37	55	

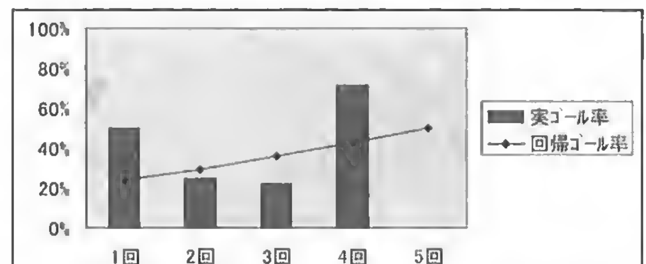


図 12　シュート前パス回数とゴール率（HC-A）

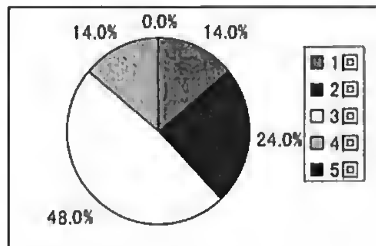


図13　シュート前パス回数（T自動車）

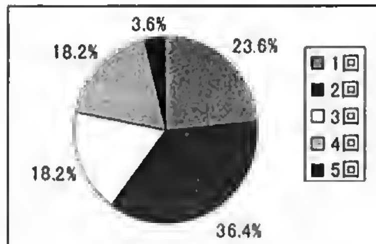


図14　シュート前パス回数（H高校）

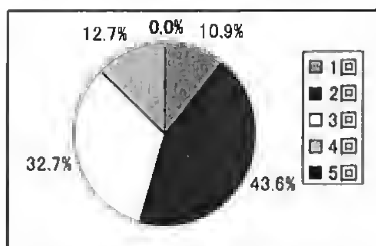


図15　シュート前パス回数（HC－A）

最も高い値を示した。

HC-Aは、回帰ゴール率において、最も顕著な向上を見せたが、実ゴール率の平均を比較すると、6チーム中、最も低い値を示した。

H高校は、回帰ゴール率において、パス回数の増加に対して、唯一、減少の予測値を示した。平均パス回数を比較すると、H高校だけが、ゴール時2.29、シュートミス時2.50回と、ミス時よりゴール時の方が少ない値を示した。

以上の結果から、シュート直前のパス回数が多い程、ゴールキーパーに対して、戦術的に有利な状況を作り出し、ゴール率の向上が期待できると考えられる。

しかし、ゴール率が高い場合に、顕著な向上は期待できない。ゴール率を向上させるためには、戦術プレイだけではなく、個々のシュート能力も重要である。個々の能力の高いチームでは、戦術プレイ以前に、個々の能力によって、元々ゴール率が高いので、更に向上させることが、容易ではないからである。



更に、シュート直前のパス回数を単に増やしただけでは、戦術的に必ずしも有効ではない。H高校に見られるように、相手防御（GKを含む）が優位である場合、パスを増やす程、期待されるゴール率が減少する。これは、戦術的に有効な、能動的なパスではなく、相手の防御活動によって出さざるを得なかった、戦術的に無意味な、受動的なパスになっている、という可能性が考えられる。

4. まとめ

本研究においては、ハンドボールにおける「おもしろさ」として、戦術プレイの分析を試みた。

戦術プレイを、シュート時にゴールキーパーに対し、有利な状況を作り出すことと限定し、シュート直前5秒間のパス回数を数えることによって分析した。

2007年度全日本インカレベスト4となった大学チームが出場した、全日本総合選手権の3試合を分析対象とした。

データ処理としては、質的データの回帰分析を行う方法として、ロジスティック回帰分析を行った。

主な結果は以下の通りであった。

①シュート直前のパス回数が多い程、ゴール率の向上が期待できる。

②ゴール率が高い場合には、顕著な向上は期待できない。

③相手の防御が優位である場合には、パス回数を増やしても、ゴール率の向上は期待できない。

5. 文　献

1）竹内　啓ほか、「質的データの回帰分析」、『統計学辞典』、東洋経済新報社、pp.428-437、1989.

2）兼清　道雄、「ロジスティック回帰分析～理論編」、http://koko15.hus.osaka-u.ac.jp/~kanekiyo/study/archive/logistic040604p.pdf, 2003.

ハンドボール選手のトレーニング期における望ましい食事のあり方—献立作成にあたって

柳田美子、村井美保子、佐久間克彦、坂本静男、西山逸成（医事専門委員会）

はじめに

スポーツ選手は、トレーニングの期分けなどにより食事内容が異なるために、栄養アセスメントを実施しながら栄養管理を行なっていくことが大切です。連日厳しいトレーニングを行っているスポーツ選手は、疲労やストレスをうまくコントロールして行かなければなりません。今回はトレーニング時における食事摂取の在り方について、筆者らが「機関誌ハンドボールNo497、499」で報告した「U-19全日本ハンドボール選手の食生活」を参考に献立を作成したので、ここでは、それを料理したものを掲載し、また、献立を作成する際のポイントについて述べます。

1．強化合宿時の栄養摂取状況

合宿時のエネルギー摂取量は男子4980kcal、女子2630kcalであり、必要量と比較し、男子は多く食べている傾向にあり、女子では反対に必要量の66%と少ない摂取傾向にありました。

2．献立作成にあたっての留意点

1）食事は、年齢、性別、体格、競技種目、トレーニング内容、身体作りの目的、個々の生活活動量や体調によって異なります。また、トレーニング期間中全体を通してバラエティに富んだメニューづくりと、1日の適切な配分が大切です。スポーツ選手は、練習終了後速やかに食事をとることにより、疲労回復が効果的になりますから、簡単にとれる補食を加える必要があります。

2）バランスのとれた食事という基本は、誰でも同じです。図1に示したように主食、副菜、主菜、牛乳・乳製品、果物を揃えた食事にすることが大切です。専門的には食品構成を作成します。

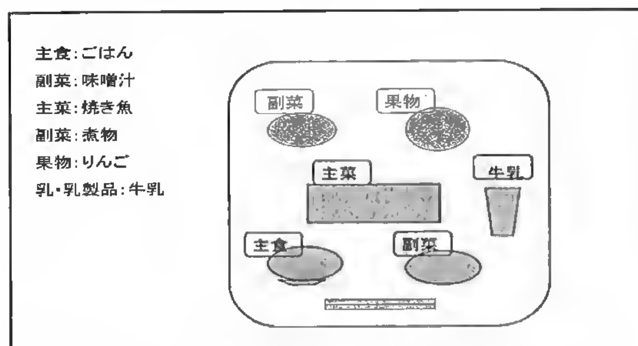


図1　主食、副菜、主菜、果物、乳・乳製品

表1　食品の機能

一次機能	—	栄養機能 栄養素
二次機能	—	おいしさの機能 色素、呈味、香気、テクスチャ
三次機能	—	生体生理調節機能 ポリフェノール類、カロテノイド類、アスコルビン酸、トコフェロール、含硫化合物、オリゴ糖、食物繊維、EPA,DHA（魚油）など

3）次にスポーツ選手の献立を作成する時の留意点として表1に示したような食品の機能から考えると、まず、食品の1次機能として栄養機能があります。これはエネルギー、たん白質、脂質、ビタミン、ミネラルといった栄養素を個人の食事摂取基準に合わせて作成します。集団の場合は平均値をとります。

第2次機能ではおいしさです。せっかく作っても選手が食べてくれないのでは意味がありません。目で見てカラフルなもの、香りが食欲をそそり、歯ざわりのよいもの、同じ様な味が重ならないことなどです。また、季節感があり、新鮮な材料を選びます。

第3次機能では生体生理調節機能です。これは、近年注目されている食品の機能です。

人間を含む動物は酸素を使って生きるためのエネルギーを得るように進化してきました。その必然の結果として酸素の毒にさらされることになったのです。スポーツ選手はたくさんのエネルギーを使い、それだけ、酸素も多く必要です。この酸素の毒である活性酸素に抵抗するための巧みな機構も進化してきました。それは多くの抗酸化物質です。この抗酸化物質には色の濃い野菜や果物に含まれるポリフェノール、カロテノイド、そして、ビタミンCやEなどがあります。これらを多く含んだ食品を取り入れ、インスタント食品や加工食品は控えます。

おわりに

スポーツ選手への食事は、選手の要望とマッチさせながら、より良い食事が提供できるように、そして、選手は、トレーニングと同じ様に食事についても、毎日トレーニングを重ねながら、自分がどんなタイミングで何を食べて、飲んでいるのか、チェックし、パフォーマンスの向上に心がけて欲しいものです。

ハンドボール選手の合宿時の献立（例）―午前・午後の練習を行った場合

写真は、16～18歳のハンドボール選手を対象に、トレーニング期に使用する献立を作成し、調理したものです。

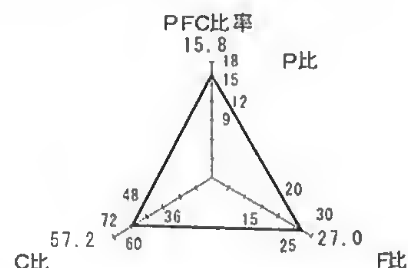
選手は成長期にあり、且つ、１日５～６時間程度の激しい鍛錬を行っている事、また選手の平均体格より、男子は5,000kcal、女子は3,500kcalを目安に設定しました。（写真は男子用のメニュー）男女の基本メニューは同じですが、今回ご報告する男子用のメニューから、ご飯の量・料理の品数を調整し、女子3,500kcalとしました。

本献立では、エネルギーの充足・ＰＦＣバランスはもちろんの事、選手の貧血予防・抗酸化食品の摂取等にも考慮しました。特に注意したい栄養素は、スポーツ選手に不足しやすい鉄22.5mg、カルシウム1,567mg、ビタミンC 481mgが摂れる献立になっています。また、食事調査において不足しがちであった「海藻類」、「大豆・大豆製品」、「芋類」の積極的な摂取についても配慮しました。補食は練習後30分以内に、水分・糖質・たん白質を摂取する事で、疲労回復を速やかにする事を狙いとしています。代謝調節に大切なビタミンやミネラルも補える食品を選ぶよう考慮しました。

男子ハンドボール選手　合宿時の献立（5,000kcal）

	エネルギー（kcal）	たん白質（g）	脂　質（g）	炭水化物（g）
朝食	1,278	50.9	38.4	176.2
補食	178	8.7	2.2	33.5
昼食	1,410	61.2	49.7	180.2
補食	276	8.6	6.2	49.5
夕食	1,654	66.3	47.3	232.8
補食	233	3.5	7.0	41.9
合計	5,029	199.1	150.7	714.1

	たん白質（P）	脂　質（F）	炭水化物（C）
ＰＦＣ比(%)	15.8	27.0	57.2
理想比（%）	12～15（15～20）	20～30（20～25）	50～60



栄養面だけではなく、リラックスして食事を楽しみ、食欲が増すような献立作成を心がけております。トレーニング同様、日々の食事を大切にする事により、競技力の向上につながるものと考え、本献立を作成いたしました。

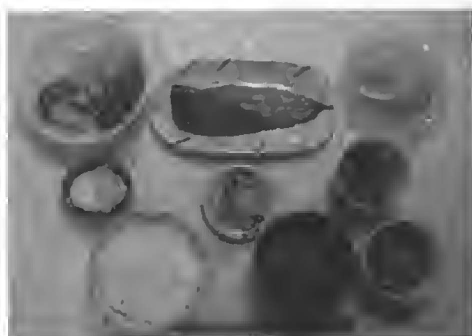


写真１　朝食



写真２　補食（バナナ・低脂肪牛乳）

[朝食]：消化が良く、さっぱりとした口当たりの良いものとしました。
☆ご飯　☆貝のみそ汁（しじみやあさり）
☆焼き魚（今回は鯖を使用）　☆温泉卵
☆納豆（葱・海苔入り）
☆野菜サラダ（キャベツ・きゅうり・セロリー・玉葱・トマト・ハム・カボチャ）
☆おひたし（ほうれん草・わかめ・鰹節）
☆漬物（きゅうりぬか漬・たくあん漬）
☆果物（オレンジ）

[補食]：練習直後に摂取します。
☆バナナ　☆低脂肪牛乳



写真３　昼食

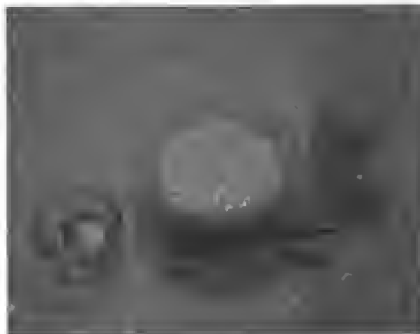


写真４　補食（ヨーグルト・100%オレンジジュース）

[昼食]：※お弁当にする事を考慮しました。
☆カツサンド（パン・豚肉・レタス）
☆きのこスパゲッティ（スパゲッティ・きのこ類・さやいんげん・玉葱・ベーコン）
☆ジャーマンポテト（じゃが芋・ハム・玉葱・チーズ）
☆ごぼうのサラダ（ごぼう・人参・トマト・レタス）
☆果物（グレープフルーツ）　☆低脂肪牛乳

[補食]：練習直後に摂取します。
☆ヨーグルト（はちみつ添え）
☆100%オレンジジュース

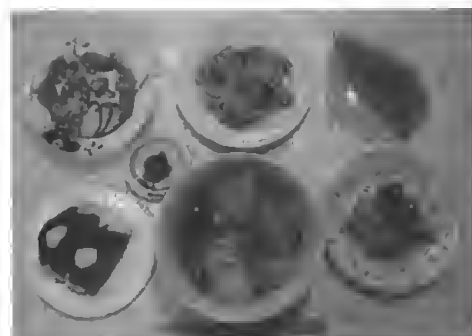


写真５　夕食



写真６　補食（牛乳ゼリー）

[夕食]：食べやすい麺類を取り入れました。
☆おにぎり（あさり佃煮）
☆チャーシュー麺（ほうれん草・もやし・葱のせ）
☆鶏の唐揚げ（パセリ添え）
☆肉と野菜のソテー（豚肉・ピーマン・人参・玉葱）
☆豆腐のサラダ（豆腐・トマト・セロリー・きゅうり・レタス・クルミ）
☆果物（すいか）…・季節の果物を使用します。

[補食]：夕食後～就寝までに摂取します。
☆牛乳ゼリー（フルーツ入り）

ヨーロッパ情報

第2回：チャンピオンズリーグから②

村松　誠（編集委員）

男子チャンピオンズリーグシステム

男子のチャンピオンズリーグは、まず予選ラウンドから始まり、グループマッチ、メインラウンド、準々決勝、準決勝、決勝と進められた。予選ラウンドは、9月5日から13日まで行われた。試合は、2回戦制のノックアウト方式で行われた。勝利した8クラブは第1シード24クラブに加わり、32クラブで、4クラブずつ8リーグのホームアンドアウェイで戦った。敗退の8クラブは、EHFカップラウンド2へ回った。

グループマッチは、10月1日から11月23日まで行われ、それぞれ上位2クラブがメインラウンドへ進んだ。それぞれの3位クラブは、カップウィナーズカップのラウンド4へ回った。

メインラウンドは、1月16日から2月1日までの世界選手権の終了後、2月11日から3月8日まで戦われた。ここに進出したクラブを見ると、ドイツ、スペインが4クラブずつ、フランスとデンマークが2クラブずつと、やはりヨーロッパの強豪国のクラブが多い。

準々決勝は、3月25日から4月5日まで、ノックアウト方式で行われた。それぞれ、キール（ドイツ）、シウダット・レアル(スペイン)、ハンブルグ(ドイツ)、ライン・ネッカー（ドイツ）が勝ち上がったが、ドイツから3クラブが勝ちあがっていることは、ドイツ・ブンデスリガが世界一と言われる所以であろう。

準決勝は、ハンブルグ対シウダット・レアル、キール対ライン・ネッカーの対戦となり、4月25日から5月2日までに戦われた。ハンブルグ対シウダット・レアルは、シウダットが2連勝で決勝へ進んだ。キール対ライン・ネッカーは1勝1敗であったが、1戦目のキールのホームゲームでの14点差が大きなアドバンテージとなり、総得点67対54でキールが決勝へ駒を進めた。

決勝第1戦は、キールのホームで1万300人と言う大観衆を集めて行われた。ゲームは互角の展開で進行。流れは後半23分32対32の同点をきっかけに変わった。キールの速攻でよく走り、着々と加点をし、39対34の5点差で終了した。第2戦は、シウダットのホームで、5,500人の観衆を集めて行われた。キールは5点のアドバンテージを持ってのスタートであった。そして、前半を終わって、さらにアドバンテージを拡げ、後半10分には、トータルで9点のリードしている状態であった。しかし、その後全てが変わった。GKのいくつかのファインセーブがあり、キールの攻撃が狂い始めた。そして、シウダットは、キールのディフェンスの欠陥を見つけ、反撃開始となった。後半20分には、逆転に成功し、シウダットホームの観客は、会場の雰囲気を変えるほどの熱狂的応援をした。ここからは、第1戦の5点差をひっくり返すことが目標となった。一方、キールは立て直すことができず、ずるずると後退していった。残り48秒で、オルファー・ステフォアンソンがゴールを奪い、33対27とした時には、シウダットの勝利が確信された。通算得点67対66の1点差でシウダット・レアルがシーズンタイトルを獲得した。

決勝戦は、豪華メンバー

決勝戦に出場したプレーヤー達は、オリンピック金メダリストが8人、世界選手権優勝メンバーが15人、ヨーロッパ選手権優勝メンバーが8人と言う超豪華メンバーだった。そのほかでも、銀メダリスト、準優勝などのキャリアを持つプレーヤーばかりである。1997年熊本で世界選手権に来日したプレーヤーもおり、なじみもあるのではないだろうか。シウダットの監督は、タラント・ドイシバイエフ。熊本ではセンタープレーヤでのベストセブンに選ばれている。同様にポストのベストセブンは、キールのカラバティック。アイスランドのサウスポーエースは、シウダットのオルファー・ステファンソン。スェーデンのエースヒッターは、キールのローブグレン。

ポスト・シーズンはすでに開始

2009/10年シーズンはすでに始まっている。6月24日には、2009/10年シーズンの抽選が行われ、出場チーム、シードなどが発表されている。また、若干のシステム変更も発表されており、大会活性化ための柔軟な運営が伺われる。

08/09男子チャンピオンズリーグ第1ステージは2チームのノックアウト方式だったが、09/10シーズンは3チームリーグが3グループと4チームリーグが2グループの5グループで戦われる。このうち1グループはワイルドカードを得るもので、全体の16位にシードされることになっている。ここから勝ち上がった5チームを加え、第2ステージは6チームずつの4グループで行われる。

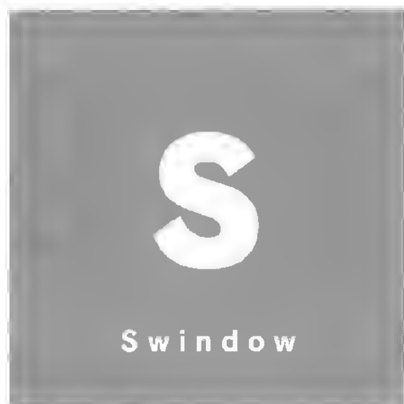
一方女子第1ステージは、08/09シーズンは4チームリーグの2グループで上位2チームずつが第2ステージに進んだが、09/10は4チームリーグと3チームリーグ1グループで戦われ、それぞれ上位2チームが第2ステージに進む。

ヨーロッパのハンドボールでは6月から8月までがシーズンオフ。すでにいくつかのニュースが流れているが、有力プレーヤーの引退や、移籍が発表されている。世界選手権とヨーロッパ選手権の金メダルを含む28のタイトルホルダーでもあるキールのステファン・ローブグレン（スウェーデン）も引退を発表している。彼は、スウェーデンに戻りスポーツ学校の指導者となることと、仲間と共にスポーツビジネス代理店を開く予定になっていると報道されている。

クロアチアのバリッチは、クラブの財政問題からプレーヤーの給料を下げることを強制されたため、多くの憶測があったが、結局クロアチアにとどまることが確認されている。

日本ではストーブリーグと言う言葉があるが、ヨーロッパのハンドボールでは、エアコンリーグとも言うべきものであろう。話題には事欠かない、ヨーロッパのハンドボールである。

呼吸する建築



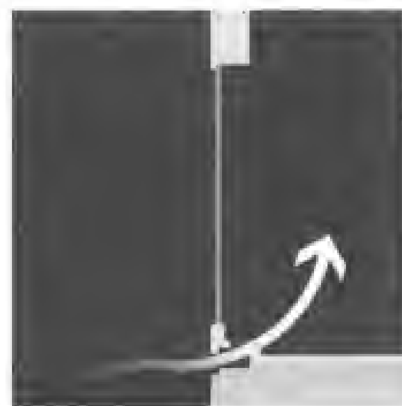




Swindow●スウィンドウ
わずかな風圧も捉えて自然に開閉し、室内外の温度差で効率の良い換気が行えるバランス式逆流防止窓。



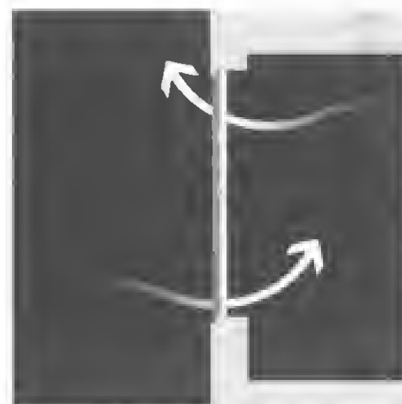




Wincon●ウィンコン
内蔵の調節弁により、風の強弱に影響を受けにくく、定風量で換気が行えるヨコ型定風量換気スリット。







Cavcon●キャブコン
内蔵の調節弁により、強風時でも一定の風量で換気ができ、無風時でも内外の温度差による重力換気が行えるタテ型定風量換気スリット。

NAV WINDOW 21

「呼吸する建築」。それは人が呼吸をするように
建築が自然に空気を取り入れ、建物内部の空気を新鮮に保ち
不要なものを排出するシステムを持つことです。
自然換気システム＝NAV WINDOW 21は
これまでの建築の機械空調と共存し
建物を取り囲む風を読み、建物内に風の道を作りそれを状況の変化に
あわせて制御する画期的な換気システムです。

三協立山アルミ株式会社
東京本社／〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1
住友中野坂上ビル20F〈環境商品部〉 TEL（03）5348-0367
インターネットホームページ http://buildingsash.net/

スコアールーム ①　第50回全日本実業団選手権大会

開催期日：2009年7月8日(水)～7月12日(日)
会　場：愛知県名古屋市・枇杷島スポーツセンター、中村スポーツセンター

【男　子】

▼1回戦

豊田合成	28	(10－14、18－12)	26	琉球コラソン
トヨタ紡織九州	39	(21－11、18－12)	23	トヨタ自動車
北陸電力	24	(10－9、14－10)	19	セントラル自動車
トヨタ車体	45	(23－9、22－10)	19	八光自動車工業

▼2回戦

大崎電気	35	(20－10、15－10)	20	豊田合成
湧永製薬	32	(15－10、17－12)	22	トヨタ車体
大同特殊鋼	29	(13－13、16－7)	20	北陸電力
トヨタ紡織九州	39	(19－15、20－11)	26	Honda

▼9～12位決定戦

琉球コラソン	39	(16－9、23－18)	27	トヨタ自動車
セントラル自動車	26	(14－13、12－12)	25	八光自動車工業

▼11・12位決定戦

トヨタ自動車	34	(20－13、14－15)	28	八光自動車工業

▼9・10位決定戦

琉球コラソン	34	(11－7、23－12)	19	セントラル自動車

▼5～8位決定戦

Honda	35	(17－13、18－13)	26	豊田合成
トヨタ車体	31	(14－11、17－11)	22	北陸電力

▼7・8位決定戦

北陸電力	32	(14－11、18－12)	23	豊田合成

▼5・6位決定戦

トヨタ車体	29	(15－10、14－11)	21	Honda

▼決勝リーグ

大崎電気	26	(13－11、13－14)	25	トヨタ紡織九州
大同特殊鋼	33	(16－12、17－16)	28	湧永製薬
大崎電気	29	(14－12、15－17)	29	湧永製薬
大同特殊鋼	38	(20－13、18－14)	27	トヨタ紡織九州
大同特殊鋼	31	(16－13、15－18)	31	大崎電気
湧永製薬	30	(18－7、12－10)	17	トヨタ紡織九州

【女　子】

▼予選リーグA組

北國銀行	35	(15－6、20－9)	15	三重バイオレットアイリス
北國銀行	33	(16－11、17－10)	21	香川銀行
三重バイオレットアイリス	22	(14－8、8－13)	21	香川銀行

▼予選リーグB組

オムロン	42	(22－11、20－16)	27	広島メイプルレッズ
オムロン	38	(19－14、19－12)	26	ソニーセミコンダクタ九州
ソニーセミコンダクタ九州	36	(18－13、18－19)	32	広島メイプルレッズ

▼5・6位決定戦

広島メイプルレッズ	28	(14－9、14－14)	23	香川銀行

▼準決勝

北國銀行	36	(13－18、23－9)	27	ソニーセミコンダクタ九州
オムロン	27	(14－11、13－12)	23	三重バイオレットアイリス

▼3位決定戦

ソニーセミコンダクタ九州	35	(18－14、17－8)	22	三重バイオレットアイリス

▼決勝戦

オムロン	30	(17－14、13－10)	24	北國銀行

スコアールーム ②　第29回全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会

開催期日：平成21年7月24日(金)～26日(日)
会　場：福島県・本宮市総合体育館、本宮一中体育館、本宮高校体育館

■会長杯トーナメント

【男　子】

▼1回戦

法政二OB	30	(16－5、14－14)	19	h・c・million
上送	26	(13－6、13－10)	16	しなのクラブ
FST	29	(15－8、14－4)	12	HC金沢
不来方クラブ	32	(16－11、16－16)	27	かぶら送球会
渡辺組	27	(12－11、15－12)	23	湖陵クラブ
福島SGクラブ	28	(13－14、15－9)	23	土浦三高クラブ
学石クラブ	33	(21－13 12－11)	24	東陽
向陵クラブ	30	(9－13、12－8) (4－3、3－4、2－0)	28	山形新球会

▼2回戦

法政二OB	26	(12－9、14－9)	18	上送
FST	30	(17－9、13－12)	21	不来方クラブ
渡辺組	27	(12－7、15－13)	20	福島SGクラブ
学石クラブ	34	(17－14、17－19)	33	向陵クラブ

▼準決勝

FST	21	(13－8、8－6)	14	法政二OB
渡辺組	32	(17－10、15－6)	16	学石クラブ

▼決　勝

渡辺組	23	(11－11、12－11)	22	FST

【女　子】

▼1回戦

REDS	24	(15－6、9－9)	15	新潟TC
かぶら女子ハンドボールクラブ	21	(10－9、11－10)	19	萩江クラブ
福島クラブ	34	(19－4、15－7)	11	北海道SEVEN

SAKURAクラブ	22	(13－8、9－5)	13	古川ハンドボールクラブ

▼準決勝

REDS	30	(14－7、16－6)	13	かぶら女子ハンドボールクラブ
福島クラブ	21	(10－5、11－8)	13	SAKURAクラブ

▼決　勝

福島クラブ	24	(16－8、8－10)	18	REDS

■市長杯トーナメント

【男　子】

▼1回戦

h・c・million	21	(13－10、8－9)	19	しなのクラブ
かぶら送球会	33	(17－8、16－13)	21	HC金沢
湖陵クラブ	26	(15－9、11－12)	21	土浦三高クラブ
東陽	27	(12－11、15－13)	24	山形新球会

▼準決勝

かぶら送球会	26	(13－4、13－5)	9	h・c・million
湖陵クラブ	29	(15－11、14－9)	20	東陽

▼決　勝

湖陵クラブ	30	(14－12、16－9)	21	かぶら送球会

【女　子】

▼1回戦

萩江クラブ	21	(10－10、11－6)	16	新潟TC
古川ハンドボールクラブ	29	(15－11、14－14)	25	北海道SEVEN

▼決　勝

萩江クラブ	21	(11－10、10－10)	20	古川ハンドボールクラブ

スコアールーム③

第29回全国クラブハンドボール選手権大会西地区大会

開催期日：平成21年7月18日(土)～20日(月)

会　場：愛媛県松山市・県総合運動公園体育館

【男　子】

▼予選リーグAブロック

アローズ高知	23	(10－10、13－7)	17	MHC
アローズ高知	19	(12－5、7－12)	17	宮崎フェニックス
MHC	23	(12－9、11－7)	16	宮崎フェニックス

▼予選リーグBブロック

PF須磨東クラブ	18	(7－8、11－7)	15	下松クラブ
PF須磨東クラブ	16	(12－3、4－8)	11	愛媛教員クラブ
下松クラブ	24	(13－4、11－8)	12	愛媛教員クラブ

▼予選リーグCブロック

チーム・フォルス	21	(11－8、10－7)	15	東海学連クラブ
チーム・フォルス	17	(7－10、10－6)	16	中央クラブ
東海学連クラブ	25	(14－7、11－8)	15	中央クラブ

▼予選リーグDブロック

総社クラブ	21	(10－9、11－8)	17	ホンダ熊本
HC愛媛Armada	16	(12－8、4－6)	14	総社クラブ
ホンダ熊本	21	(10－11、11－9)	20	HC愛媛Armada

▼決勝トーナメント1回戦

PF須磨東クラブ	22	(11－11、11－7)	18	アローズ高知
総社クラブ	18	(6－7、12－6)	13	チーム・フォルス

▼9・11位決定戦

愛媛教員クラブ	22	(11－5、11－7)	12	宮崎フェニックス
ホンダ熊本	19	(9－4、10－4)	8	中央クラブ

▼5・7位決定戦

MHC	20	(8－8、12－10)	18	下松クラブ
HC愛媛Armada	15	(8－8、7－5)	13	東海学連クラブ

▼3位決定戦

チーム・フォルス	41	(13－19、17－11) (5－1 延長 6－2)	33	アローズ高知

▼決　勝

PF須磨東クラブ	21	(8－12、13－7)	19	総社クラブ

【女　子】

▼1回戦

御座候	18	(9－7、9－6)	13	香川レディース
日本ウェルネス名古屋	21	(12－8、9－10)	18	FCC
ninfa・kagoshima	29	(13－4、16－7)	11	ナデシコクラブ
HC岡山	18	(7－5、11－3)	8	松山HC

▼5－8位決定1回戦

香川レディース	15	(8－8、7－6)	14	FCC
松山HC	17	(7－7、10－9)	16	ナデシコクラブ

▼7位決定戦

ナデシコクラブ	19	(9－4、10－8)	12	FCC

▼5位決定戦

香川レディース	20	(12－6、8－6)	12	松山HC

▼準決勝

御座候	21	(8－6、13－9)	15	日本ウェルネス名古屋
HC岡山	21	(9－11、12－5)	16	ninfa・kagoshima

▼3位決定戦

ninfa・kagoshima	28	(12－5、16－8)	13	日本ウェルネス名古屋

▼決　勝

HC岡山	25	(14－11、11－13)	24	御座候

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」7月入会・継続会員

【岩　手】上川　正二　【宮　城】千田　文彦、加藤　宏之　【茨　城】菊田　政行
【埼　玉】寺尾　嗣子、中野　慶子　【東　京】鈴木　明美、河内　鋭雄、府川　友紀子、安藤　純光
【山　梨】齊藤　實　【愛　知】安藤　孝、山田　壮八、葛谷　康志　【大　阪】戸谷　克蔵、里村　静俊
【奈　良】奥山　美樹　【和歌山】大橋　吉次　【長　崎】石井　通義

【9月の行事予定】

【会　議】
9月12日(土)　常務理事会（東　京）

【大　会】
9月5日(土)～　第34回日本リーグ（全国各地）

HANDBALL CONTENTS Sep.

次代を担う若手レフェリーの育成………植村　彰　1
第14回ヒロシマ国際ハンドボール大会
………………………………………………山本　一　2
第３回女子ユースアジア選手権
報　告　高田日呂美／繁田順子……………………4
参加選手　大谷佳奈美／名渕友紀……………………5
高松宮記念杯第50回
全日本実業団ハンドボール選手権大会
大会振り返って…………………………原田孝幸　6
男子優勝：大同特殊鋼・清水博之……………………7
女子優勝：オムロン・洪　延昊………………………7
ワールドゲームズ2009高雄大会
・ビーチハンドボール競技（女　子）
参加報告…………………………………川上整司　8
第29回全国クラブハンドボール選手権大会西地区大会
大会を振り返って………………………田鍋由朗　10
男子優勝：PF須磨東クラブ・上田大介　…………11
女子優勝：HC岡山・高橋敦子　……………………11
第29回全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会
大会を振り返って………………………飯塚敏章　12
フリースロー：詳細なGKデータを　……早川文司　13
機関誌の表紙に観る「全日本代表チーム」の歴史…14
指導委員会コーチング研究会報告：
学生トップチームの戦術プレイに関する考察
………………………………………………清水宣雄　16
医事委員会だより：
ハンドボール選手のトレーニング期における
望ましい食事のあり方―献立作成にあたって
……………………………………柳田久美子ほか　22
ヨーロッパ情報②：チャンピオンズリーグから
………………………………………………村松　誠　24
スコアールーム：
第50回全日本実業団選手権大会／
第29回全国クラブ選手権大会西地区大会／
第29回全国クラブ選手権大会東地区大会…………26
10万人会会員／9月の行事予定／目次　………………28

（登録チームの購読料は登録料に含む）

asics
sound mind, sound body

JAPAN、名品の系譜。

機能だけではない、風格のようなものがなければならぬ。
先端のテクノロジーでさらにパワーアップした機能を備えて
新しくなったスカイハンドJAPANシリーズ。
グリップ力に優れた国産ラバー採用のJAPANラバーソールと、
しなやかで通気性のあるエクセーヌを使ったカラーアッパーに
ソール前足部のベンチレーションホール等々。
インドアを制するミドルカットとローカットが揃った。

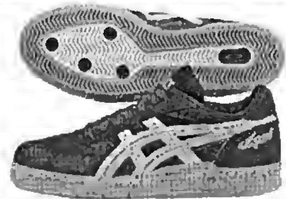
足入れ感を高めてクラシカルな名品復刻モデル。

スカイハンド® JAPAN-MT
THH514 ¥16,800(本体¥16,000)
- カラー：5093 ネイビーブルー×シルバー
- サイズ：23.0〜29.0cm



名品スカイハンドSPのフォルムを受け継いだローカットモデル。

スカイハンド® JAPAN-S
THH515 ¥15,750(本体¥15,000)
- カラー：2300 レッド×パールホワイト
  5093 ネイビーブルー×シルバー
- サイズ：23.0〜29.0cm



JAPAN
JOC オフィシャルパートナー

株式会社アシックス

アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。 表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。( )内は消費税抜きの本体価格です。http://www.asics.co.jp 商品についてのお問い合わせは「アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814、06-6385-1155



(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』第五〇三号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可 平成二十一年八月二十六日印刷 平成二十一年九月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表〇三・三四八一・二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間[illegible]〇〇円